

官報

號外 昭和六年三月十七日

○第五十九回 貴族院議事速記第三十三號

帝國議會

昭和六年三月十六日(月曜日)午前十時二十五分開議

議事日程 第三十三號

昭和六年三月十六日
午前十時開議

第一 無盡業法改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第二 自動車交通事業法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第三 製鐵業獎勵法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 重要産業ノ統制ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 入營者職業保障法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第六 特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第七 特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルコトニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第八 賠償金特別會計法廢止法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第九 昭和四年法律第二十六號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十 京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十一 製鐵所特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十二 簡易生命保險特別會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十三 北洋漁業權益確保ニ關スル決議案(侯爵佐佐木行忠君外十二名發議) 第一讀會

第十四 一時金廢兵恩給法中改正ノ請願 會議

第十五 菊川改修ノ請願 會議

第十六 鍼灸醫師法制定ノ請願 會議

第十七 北海道色丹郡斜古丹村ニ無線電信施設ノ請願 會議

第十八 樺太元泊郡知取町ニ區裁判所設置ノ請願 會議

第十九 北海道落石燈臺ニ霧笛設置ノ請願 會議

第二十 水産物冷蔵獎勵ノ請願 會議

第二十一 秋刀魚漁期制限ノ請願 會議

第二十二 漁村金融ノ改善ニ關スル請願 會議

第二十三 郡市水産會技術員國庫補助ノ請願 會議

第二十四 水産物ノ鐵道運賃輕減ノ請願 會議

第二十五 軍人傷痍記章令中改正即行ノ請願 會議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ報告致サセマス

昭和六年三月三十一日

○子爵東園基光君 本員ハ茲ニ日程變更ノ動議ヲ提出イタシマス、即チ日程第十三、北洋漁業權益確保ニ關スル決議案、右ノ日程第一ノ前ニ繰上ゲマシテ、提出者ノ説明ヲ求メラレ、其審議ヲ盡サレムコトヲ希望シマス

○男爵阪谷芳郎君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 東園子爵ノ議事日程變更ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔起立者多數〕

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス、政府ノ同意ヲ得マシタ

○議長(公爵德川家達君) 日程第十三、北洋漁業權益確保ニ關スル決議案、侯爵佐佐木行忠君外十二名發議、會議、野村子爵ノ登壇ヲ求メマス

北洋漁業權益確保ニ關スル決議案

右提出候也

昭和六年三月九日

發議者

侯爵佐佐木行忠 伯爵溝口 直亮

男爵大井 成元 子爵青木 信光

子爵野村 益三 男爵阪谷 芳郎

小松謙次郎 伊澤多喜男

阪本鈺之助 竹越與三郎

南 弘 倉知 鐵吉

田村 新吉

贊成者

公爵一條 實孝 侯爵峰須賀正昭

侯爵中御門經泰 伯爵林 博太郎

伯爵柳原 義光 伯爵松平 賴壽

伯爵小笠原長幹 伯爵酒井 忠克

伯爵黒木 三次 伯爵二荒 芳徳

伯爵酒井 忠正 男爵木越 安綱

貴族院議事速記第三十三號 議長ノ報告 日程變更ノ動議 北洋漁業權益確保ニ關スル決議案 會議

子爵高倉 永則	子爵梅小路定行
子爵伊集院兼知	子爵牧野 忠篤
子爵前田 利定	子爵池田 政時
子爵清岡 長言	子爵今城 定政
子爵吉田 清風	子爵立花 種忠
子爵數 篤麿	子爵豐岡 圭資
子爵片桐 貞央	子爵大河内輝耕
子爵岡部 長景	子爵曾我 祐邦
子爵井伊 直方	子爵花房 太郎
子爵三宅戶敬光	子爵東園 基光
子爵西尾 忠方	子爵裏松 友光
子爵秋田 重季	子爵戶澤 正己
子爵梅園 篤彦	子爵松平 康春
子爵土岐 章	淺田 德則
子爵北里柴三郎	佐藤 三吉
水上長次郎	新渡戸稻造
眞野 文二	男爵松井慶四郎
石塚 英藏	男爵鍋島 直明
男爵平野 長祥	男爵小原 駱吉
男爵紀 俊秀	有吉 忠一
松浦鎮次郎	男爵長松 篤榮
男爵神山 郡昭	男爵上田 兵吉
若槻禮次郎	男爵北大路實信
三井清一郎	坂西利八郎
上山滿之進	男爵千田 嘉平
男爵今枝 直規	男爵中島久萬吉
川村 竹治	男爵千秋 季隆
男爵斯波忠三郎	男爵福原 俊丸
森 賢吾	男爵金子 有道
男爵北河原公平	男爵小畑大太郎
男爵郷 誠之助	男爵黒田 長和
男爵赤松 範一	男爵岩倉 道俱
男爵有地藤三郎	男爵今國 國貞
男爵井田 磐楠	男爵東郷 安

男爵伊藤 文吉	男爵足立 豐
男爵高木 喜寛	男爵松尾 義夫
男爵松岡 均平	男爵寺島 敏三
男爵井上 清純	男爵高崎 弓彦
男爵伊江 朝助	男爵中村 謙一
男爵周布 兼道	男爵近藤 滋彌
男爵北島 貴孝	男爵沖 貞男
男爵關 義壽	男爵三須 精一
男爵稻田 昌植	男爵肝付 兼英
男爵佐藤達次郎	男爵大寺 純藏
男爵園田 武彦	男爵渡邊 修二
男爵深尾隆太郎	高橋 琢也
福永吉之助	片岡 直温
石渡 敏一	藤田 四郎
橋本圭三郎	川上 親晴
安立 綱之	中川 小十郎
菅原 通敬	湯地 幸平
田所 美治	永田秀次郎
赤池 濃	八田 嘉明
馬場 鉄一	後藤 文夫
加藤政之助	大津淳一郎
小久保喜七	樺山 資英
松村 義一	馬越 恭平
服部金太郎	木村清四郎
今井 五介	稻畑勝太郎
尾崎元次郎	村山 龍平
本山 彦一	關 直彦
林 平四郎	坂田 貞
齋藤善十郎	磯貝 浩
齋藤 善八	橋本萬右衛門
田村駒治郎	西本健次郎
名取 忠愛	土田 萬助
山崎 龜吉	菅澤 重雄
根本祐太郎	八木 春樹
佐藤 信古	松本勝太郎

長尾元太郎 小林嘉平治
田中 一馬 野村 徳七
風間八左衛門 小林 暢
絲原武太郎 高廣 次平
鳴海周次郎 本間千代吉
森田 福市 瀬川彌右衛門
男爵渡邊 汀 男爵原田 熊雄
貴族院議長公爵徳川家達殿
北洋漁業權益確保ニ關スル決議
本院前議會ニ於テ水産國策ヲ樹立ヲ政府
ニ要望シ北洋漁業問題ノ忽諸ニ附ス可カ
ラサル事ヲ建議シテ爾來ソウイェット
聯邦政府トノ交渉容易ニ進展セス動モス
レハ我條約上ノ權益ヲ阻害セラレントス
政府ハ本院ニ建議ニ鑑ミ速ニ北洋漁業問
題ノ解決ヲ期ス可シ
右決議ス

○子爵野村益三君演壇ニ登ル
タシマスルニ際シテ、御病體トハ言ヒナガ
ラ、濱口首相ノ御出席ノナイコトハ深ク遺
憾ニ存ズル次第デアリマス、貴族院ハ曩ニ
水産國策樹立ニ關スル建議案ヲ議決イタシ
マシテ、政府ニ我國ノ國情ニ鑑ミ速ニ水産
ニ關スル國策ヲ樹立シ、人口食糧問題ノ解
決並ニ國際貸借ノ改善ニ資スベキヲ求メ、及
ビ聲ヲ大ニシテ北洋漁業權益確保ヲ要望イ
タシタノデアリマス、今其因テ來リシ所以
ノモノヲ考ヘマス、第一ニハ「ソ」國ノ國
營ガ漁區ヲ奪取シタル事實ガアツタカラデ
アリマス、所謂是ハ十八漁區ノ問題ニ歸著
スルノデアリマス、第二ニハ「ソ」國ノ國營
企業ガ個人ノ假面ヲ被リテ進出イタシタ所
ノ事實ガアツタカラデアリマス、第三ニハ
「ソ」國官憲ガ我が出漁者ニ加ヘシ所ノ不法
ノ行為並ニ壓迫的ノ所業ガアツタカラデア
リマス、第四ニハ過大ニシテ且ツ不當ナル關
稅ノ賦課ヲサレタカラデアリマス、第一ノ
國營ノ漁區奪取ト申スコトハ、條約ニ謂フ
所ノ協議ヲ盡サズシテ、我が國人ノ經營シ
又之ヲ繼續セムコトヲ希望シテ居リマシタ
所ノ三十箇所ノ優良漁區ヲ國營ノ手中ニ收
メムト致シ、其異議ニ會フヤ、内十二箇所
ト云フモノヲ競賣ニ付シマシタケレドモ、
残りノ十八漁區ト云フモノヲ其手中ニ收
メ、依然トシテ今日ニ至リテ其態度ヲ改メナ
イ事實ガアツタカラデアリマス、第二ノ事
實ハ昨日マデハ恆産ナカリシ幾多ノ「ソ」國
人ガ一朝ニシテ稀有ノ財産ヲ擁シ、其財力
ニ依リ其豪膽ナル行為ニ依リ、以テ我が國
人ヲ相手ニ優良ナル、而モ數十ニ渉ル所ノ
優良ナル漁區ヲ競落シタヤウナ事實ガアル
ノデアリマス、是等ノコトハ名ハ個人トハ
申シナガラ、其實ニ於テハ國營ノ力ニ俟ツコ
ト、誠ニ歷然タルモノガアルノデアリマス、
若夫レ第三ノ不法ナル行為並ニ壓迫的ナ所
業ト申スコトニ至リマシテハ、先ヅ公海三
浬ノ主義ヲ否認イタシテ、之ガ爲ニ血腥キ
數十件ノ事件ヲ頻發イタシタコトデアリマ
ス、或ハ漁區ノ借區料即チ最低價格ヲ引上
グルコトガアリ、或ハ漁區貸下條件ノ甚シ
ク過酷ナルコトガアル、或ハ各漁區ニ定メ
ラレタル漁獲標準高ノ著シク平衡ヲ失シテ
居ル事實ガアリマス、或ハ漁具殊ニ漁網ニ
對スル取締ノ峻烈ヲ極ムル事實ガアリマス、
若シ是等ノ點ニ少シノ違例ガ見出サレルナ
ラバ、即チ罰金即チ處分、斯クシテ我が國
人ノ多數ハ或ハ財産ヲ沒收サレ、或ハ漁區
ノ指令ヲ取消サルノ事實ガアルノデアリ
マス、第四ノ不當關稅ニ付キマシテハ、本

來出漁ノ我ガ國人ハ原則トシテ出漁ニ關スル必要用品ニ付テハ輸入税ヲ免除サレテ居ルコトハ條約ノ明カニ示シテアル所ナルニモ拘ハラズ、ソノ國ハ獨自ニ無稅品目ヲ定メマシテ、之ニ該當セザル漁具食糧品等ニ對シ甚シク苛酷又不當ナル關稅ヲ賦課セントスルノデアリマス、現ニ本年二月十四日在函館領事ヲ經テ昭和四年度分トシテ從業者ニ納付ヲ命ゼラレマシタ所ノ追徵金ハ實ニ五十七萬三千圓ノ多キニ達シマシテ、其日露漁業ニ關スルモノデサヘモ、恰モ供託保證金ノ四十倍ノ多キニ至ルヤウナ實情デアッタノデアリマス、勿論是等ハ圓貨ヲ以テ、日本ノ貨幣ヲ以テ納入スベキ旨通達ヲ受ケタノデアリマス、又鵜ノ目、鷹ノ目違法ヲ漁リ、其上無智蒙昧ナル「ソ」國側ノ監視官ノ爲ニ、思ヒモ寄ラヌ痛事ニ遭フタコトハ殆ド珍ラシクナイコトデアリマシテ、其著シキ例ヲ申スナラバ「シトロ」一箱ニ對シ驚ク勿レ百八十七圓、更ニ甚シキニ至テハ草鞋一足ニ對シ大枚金三圓ノ關稅ヲ課セラレムトシタルコトサヘモアルノデアリマス、斯ノ如クニシテ過グル三箇年ノ間「ソ」人ノ經營スル漁區ノ數ハ著シク増加ヲ致シ、我ガ國人ノ經營イタシマスル漁區ノ平均漁獲量ハ著シク減少ヲ致シ、之ニ反シテ其平均借借料ハ著シク昂騰ヲ致シ、之ヲ三箇年前ニ較ベマスルト殆ド四倍ノ巨額ニ達スルノ狀況ニ在ルノデアリマス、而シテ其後ノ情勢ヲ考ヘテ見マス、以上ノ事情ハ少シモ緩和セラレザルノミナラズシテ、其勢ハ益々甚シカラントスルノ勢ヲ呈シテ居ルノデアリマス、殊ニ昨年ノ八月ニ至リマシテハ更ニ朝鮮銀行浦鹽支店ノ事件ガ新タニ起リマシテ、本問題ニ尙ホ一層ノ紛糾ヲ加ヘ

タコトハ諸君ノ熟知セラルル所デアリマス、即チ昭和五年八月十一日臨檢ノコトガ起リマシテカラ、延ビテ十月ノ三日ニ及ビ、其間九月十一日ニハ魯貨ノ自由賣買、竝ニ國外送金爲替ヲ禁ゼラレ、又次デハ所謂國定相場ナルモノヲ定メラレ、而シテ後突如トシテ十二月十三日、帳簿檢査ノ調査書ヲ發表セラレ、其十七日ニハ支店ノ閉鎖ヲ命ゼラレ、翌十八日ニ至リテ營業ノ禁止ヲ命ゼラレ、清算人ヲ指定サレ、浦鹽市長ハ又二百六十萬留ノ追徵金納付ヲ命ジタノデアリマス、而シテ是等ノ交渉ハ初メ東京ニ於テ「トラヤノフスキー」大使、永井次官ノ間ニ行ハレマシタガ、二月中旬ニ至リテハ突如トシテ莫斯科ニ移サレ、廣田大使、カラハシ次長トノ間ニ行ハルコトナッタノデアリマス、而モ北洋漁業權益確保ノ交渉ハ茲ニ端ナク憐レムベキ留換算率問題ニ轉化ヲ致シテ、月ニ互リテ決セズ、年ヲ越エテ解ケズ、斯クシテ今日ニ至リシコトハ、是亦諸君ノ熟知セラルル所デアリマス、實ニ憐ムベキ此留換算率問題デアリマス、一方ハ三十錢ト申シ、他方ハ四十錢ヲ主張シ、相共ニ執ツテ降ラズ、其差額十錢ノ爲ニ大使ト大臣トガ畦ミ合ヒ、一國ト一國トガ交渉ニ交渉ヲ重ネ、而モ交渉ノ經過中ニハ堂々タル大官ガ屢言ヲ異ニシ、約束ヲ空シクシテ、或人ノ之ヲ目シテ緣日商人ノ如シト言ヘルハ、蓋シ評シ得テ妙ナリト謂ヒツベキデアリマス、而モ此交渉タル、月ヲ越エテ成ラズ、年ヲ越エテ遂ゲズ、斯ノ如キ事實ハ私ノ寡聞ナル、未ダ嘗テ見聞セザル所デアリマシテ、惟フニ世界ノ外交史上ニ於テモ、實ニ前代未聞ノ珍事ト言フベキデアラウト思ヒマス、退イテ案ズルニ、此憐ムベ

キ留換算率問題ハ、彼ノ所謂闇黒相場ノ虛吹ニ脅エテ、經濟上ノ通則ニダニ悖リ、國際相場ヲ飽クマデ主張把持セザリシ誤謬ニ發スルノデアリマス、此關敗レテ我軍ノ振ハザル、事理正ニ然ルベキ所デアッテ、流石ニ寬仁大度ノ我當局者ト雖モ、今ニシテ之ヲ思フタナラバ、半夜夢圓カナラザルモノガアラウト思ハレルノデアリマス、唯茲ニ我々ノ覺悟スベキコトハ、獨リ此憐ムベキ留換算率問題ノ解決ヲ以テシテ、能事終レリト爲スベカラザルコトデアリマス、外交交渉終局セリト爲スベカラザルコトデアリマス、北洋漁業ノ權益確保サレタリト爲スベカラザルコトデアリマス、即チ此外ニ主張スベク、要求スベキ案件ガ決シテ少シトシナイノデアリマス、即チ前ニ舉ゲタル種種ノ事件ノ如キ又其然ルベキモノデアリマシテ、「ソ」國ノ國營企業ノ漁區取得方法ヲ確定シ、擊爭漁區ノ問題ヲ解決スルコト、漁區料ノ最低價格ノ決定方法ヲ正當ナラシムルコト、漁獲標準高ノ制定方法ヲ合理的ナラシメ之ガ調整ヲ期スルコト、漁區貸下條件ヲ修正シ過酷ナル條項ヲ撤廢セシムルコト、我ガ國人謹詰工場設置漁區ノ特別貸下ニ關スル要望ヲ解決スルコト、漁業用具品目表ニ必需品ヲ追加セシメ不當ノ課稅ヲ賦課セシメザルコト、以上ノ案件ハ皆必要ナル解決スベキ問題デアリマス、是等ハ實ニ從來ノ懸案デアリマシテ、是等ノ懸案ヲ解決セラレタレバ、所謂北洋漁業權益確保ト稱スルコト能ハザルモノデアリマス、今是等ノ問題ニ付キマシテ、我ガ當局ガ如何ニ努力サレ、如何ニ考慮サレテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、第一ノ所謂國營ノ漁區奪取ニ關シ

マシテハ、幣原外務大臣ハ「日本ノ主張スル所デハ確ニ條約違反ト思フ」ノデアリマス、斯様ニ斷言サレテ居リマス、次ノ個人名義ニ依ル國營企業ノ進出ニ關シマシテハ「日本ノ權益ヲ擁護スルヤウナ處置ハ何時モ執ツテ居ルノデアリマス」、「條約上ノ精神ニ對シテ不自然ノ進出ヲスルト云フコトニ對シテハ、我々ハ之ヲ默許スルコトハ出來マセヌカラ、サウ云フコトヲ認メタ場合ニハ、露西亞ニ抗議ヲ致スト云フコトハ、是ハ度度致シテ居ル次第デアリマス」、又所謂留換算率問題ニ付キマシテハ、幣原外務大臣ハ「交渉ヲ破ル積リナラバ、コッチノ方針ヲ「スカリ明カニスル」モノツノ方法デアリマセウ」、「併シナガラ我々ハソレ程マデ悲觀イタシテ居ナイノデアリマス」、「何トカ然ルベク話ガツクグラウト思フテ居ルノデアリマス」、「日本側トシテ主張スベキ所ハ十分主張イタシテオリマス」、「ソレハ御安心ヲ願ヒタイノデアリマス」、當局者ノ言明ハ以上ノ通りデアリマスルガ、更ニ我々ノ心ヲ留ムベキコトハ最近ノ事實デアリマス、「カラハン」廣田第一次ノ會見ニ於キマス、日本側ノ提案ニ對スル「ソ」國ノ新提案ナルモノヲ考ヘテ見マスルト、内ニ二ツノ主要ナル事項ガゴザリマス、其一ハ所謂朝鮮銀行支店ハ自發的ニ即時撤去スルコト、其二ハ新タニ國營漁區二十八區ヲ設定スルコト、以上ノ二ツノ事項ハ最モ重大ナル條項デアリマシテ、從來ノ行掛リヨリ之ヲ考ヘテ見マスルト、誰人ト雖モ嬌慢兒、度スベカラザルノ感ヲ深クスルノデアリマス、殊ニ國營漁區ヲ更ニ新ニ二十八箇所モ増加シタシトノ要望ニ至テハ、假令ソレガ交換條件ノ形式ヲ執リシトハ言ヒナガラ、

殆ど其常識ノ存在ヲ疑ハシメ、尙且ツ故ラニ事ヲ構ヘテ交渉ノ決裂ヲ求ムルニ非ザルナキヤラ覺エシムルモノデアリマス、但シ國營漁區ハ兩國ノ商議ヲ經テ之ヲ増加シ、又兩國ノ協議ニ依リテ之ヲ決定シ得ルコトハ、日露條約ノ明カニ示ス所デアリマシテ、其正當ノ道順ヲ踏メバ行ハルベキコト勿論デアリマスルケレドモ、併ナガラ方今ノ場合、所謂十八漁區ヲ以テ「ソ」國ノ條約違反トシ、此事ハ總ガテ外交交渉ノ重要ナル要件トナリツツアルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、却テ斯ノ如キ要求ヲ提案スルノハ、我等ヲシテ、「ソ」國有司ノ常識ノ存在ヲ疑ヒ、國際信義ヲ害フモノトシ、將又故ヲ事ヲ構ヘテ交渉ノ決裂ヲ圖ルモノナルヤヲ疑ハシムルノハ、決シテ偶然ニアラザルベキコトヲ信ズルノデアリマス、惟フニ流石ノ幣原外相モ、之ニ接シテハ啞然トシ呆然タルコト蓋シ想像ニ餘リアルノデアリマス、一般ニ北洋ト稱シマスル「ハ」オコック海、「ベリリング」海並ニ北部日本海ノ一部約百三十万方哩ヲ總稱スルモノデアリマスルガ、彼ノ西、樺太ヲ以テ限リ、東「カムチヤ」カ半島ヲ以テ境シ、北、沿海州ノ影ヲ浸シ、南、千島群島ノ眞砂ヲ洗フ所ノモノハ、所謂「オコック」海デアリマス、此「オコック」海ハ其廣キコト五十万方哩、内ニ十四万方哩ノ漁場ト七千哩ニ互ル海岸線トヲ備ヘ、所在ニ巨口細鱗ヲ棲マシ、到ル所ニ測知ラレザルウロクツツ貯ヘテ居ルノデアリマス、殊ニ其一部ニハ我等ノ先人夙ニ足跡ヲ印シ、已ニ業ニ所謂漁利ヲ拓キツツアタノデアリマス、宜シク日出ツル所ノ國人ト日入ル國ノ國民トハ、相睦ビ相扶ケ、共ニ福利ヲ開發シ、共ニ幸福ヲ願フベキ所デ

アリマス、惟フニ條約ノ成リ或ハ協約ノ結バルルト云フ如キモ、畢竟此目的ニ副ハムガ爲デアリマス、何事ゾ、北洋波立チ騒グ時ノミ多ク、濃氣ノ低ク兩國ノ空ニ蟠ルノ日ノミ多キコトヤ、我ミノ痛歎シテ措ク能ハザル所デアリマス、抑「ソ」國方條約ニ背キ不法ヲ敢行シ、隣國人ヲ壓迫シ、經濟上ノ原則ヲナミシ、國際信義ニ違フノ行爲、到底常識ヲ以テ律スベカラザルノ言行、小兒ト雖モ尙且ツ之ヲ愧ヂ、未聞人ト雖モ尙且ツ之ヲ忍ビ得ザルノ行動ヲ敢テスルニ付テハ、人或ハ「スラ」イブ「民族」ノ特徵ト申シマス、併ナガラ私ハ「スラ」イブ「民族」ヲ斯様ニ侮辱イタシタクハナイノデアリマス、又或ル人ハ之ヲ「ソ」ヴィエ「國」ノ制度ニ歸シマス、併ナガラ我ミハ又斯ク「ソ」ヴィエ「國」々制ヲ侮辱イタシタクハナイノデアリマス、或ル人ハ又端的ニ金ガ欲シキ爲ト斷定ヲ致シマス、但シ著シク物資ノ缺乏ニ苦シミ、不換紙幣ヲ濫發シ、其渦中ニ上下ヲ擧ゲテ呻吟シツツアル國柄ト致シマシテハ、或ハ是モ無理カラヌコトデナカラウカト思ハレマス、此評モ亦一應尤ノヤウニ聞エルコトデアリマスルケレドモ、サリトテハ餘リニサモシキ又餘リニ情ケナキ限リデハアリマセウカ、私ハ又斯クマデ我ガ可憐ナル隣人、親シムベキ日入ルノ國ノ國民ヲ評スルニ忍ビザル者デアリマス、事ヲ解スル者ハ彼ノ所謂産業五箇年計畫、「ソ」ヴィエ「國」聯邦國營漁業ノ根本的建設ノ實現ニ歸シマス、此計畫ガ近來ソソコラニ於テ唱ヘラルル所ノ所謂根本建直シノ議論トハ事カハリ、眞ニ「ソ」國ヲシテ更生ノ巷ニ向ハシムルモノ、又之ガ實現ニハ人竝外レノ覺悟ト異常ナル努力トヲ要スベキコ

トハ勿論デアリマス、即チ「ソ」國最近三箇年ノ行動ハ彼ノ計畫ヲ實現スル爲メノ豫定ノ行動、謂ハバ計畫的行動ト考ヘ得ベタ、即チ此計畫ヲ實現セシガ爲メ、或ハ條約ノ違反ヲモ空吹ク風ト聞キ流シ、海上、陸上、隨時隨所ニ不法壓迫ヲモ恣ニシ、進ミテハ經濟上ノ原則ヲ顧ミズ、尙且ツ國際信義ヲ無視スルモ亦已ムヲ得ザルモノデアリマセウカ、斯様ニ相成リマシテハ借區料ノ値上モ最早問題デアリマセウ、不當關稅モ已ムヲ得ザルモノデアリマセウ、個人ノ假面ヲ被レル國營企業ノ進出モ亦致シ方ナシト云フベキデアリマス、斯クテ日出ツル國ノ國人ヲ追拂ヒ、其有セシ漁區ヲ召上げ、其保チシ漁獲物、無慮六千万圓ニモ上ボルベキモノヲ悉ク其手中ニ收ム、斯ノ如クニシテ、彼ノ所謂「ソ」ヴィエ「國」聯邦國營漁業ノ根本的建設ハ即チ成レリト謂ヒツベキデアリマス、併ナガラ、斯様ナ事柄ガ果シテ許サルベキコトデアリマセウカ、苟タモ世界ニ國ヲ立テ、苟クモ我ガ帝國ヲ「オ」コ「ソ」ク「海」ノ此方ニ有スル「ソ」ヴィエ「國」聯邦國ガ、果シテ斯ノ如キ暴舉ヲ敢行シ得ルモノデアリマセウカ、將又我國ガ斯ノ如キ暴舉ヲ容ス程寛大ニシテ且ツ無氣力ノモノデアリマセウカ、但シ産業計畫ヲ樹立スルコトハ、ソレハ御勝手デアリマス、且又其十箇年ナルト五箇年ナルト、將又三箇年タルコトモ御自由デアリマス、且又其經濟上ノ原則ニ超越サルルコトモ場合ニ依リテハ斷行セラレルモ宜シクアリマセウ、併ナガラ是等ノコトハ他國ノ權益ヲ犯サズ、國際信義ヲ軌道ヲ逸セザル範圍ニ限定サルルコトヲ知ラナケレバナラヌノデアリマス、若夫レ既締ノ條約ニ背

キ、不法ヲ敢テシ隣國人ヲ壓迫シ、國際信義ニ違ヒツ、尙且又之ヲ敢行セントスルガ如クンバ、神人共ニ容サザル所、斷ジテ看過スルコトハ出來ヌノデアリマス、事體此ニ至テハ權益ノ擁護ト云フコトハ當リマセウ、或ハ尙權益ノ確保ト云フコトモ當リマセウ、寧ロ不法ノ扞止ト謂ヒツベキデアリマス、我等ハ即チ進ミテ不法扞止ノ爲ニ立タザルヲ得ザル場合ナアリマセウ、私ハ本問題ヨリ生ズル所、我國權益ノ侵害ト云フコトノ外ニ尙ホ憂慮スベキ一事アリト考ヘルノデアリマス、抑、此北洋漁業權ナルモノハ日露戰役ノ結果タル日露講和條約ニ依リ、我國ガ彼ノ旅順、大連、南滿鐵道並ニ樺太ノ南半部ト共ニ獲得シタルモノナルコトハ、内外共ニ齊シク認ムル所デアリマス、然ルガ故ニ私ハ幣原外相ノ我ニハ此際ニ於テ何カ必ズ纏マルト斷言シタヤウニ仰セラレマシタガ、私ハ出來ルダケノコトヲ努力シヤウト言フノデアリマス、出來ナイ場合ハドウスルカ、纏マラナケレバドウスルノダ、左様ナコトハ私トシテ明言出來ナイコトハ、是ハ能ク御諒解下サルコトト信ジテ居ルノデアリマス、是等ノ問題ニ付キマシテハ、要スルニ我ミハ十分ニ日本ノ立場ヲ向ウヘ徹底スルヤウニ致シ、サウシテ交渉ノ結果ヲ安心シテ下サイト言ヒタデハアリマセウ、我ミハ十分ニ日本ノ立場ヲ向ウヘ徹底スルヤウニ致シ、サウシテ交渉ノ結果ヲ安心シテ下サイト言ヒタデハアリマセウ、日本ノ要求スベキ點ハ私ハ十分向ウヘ要求スル、日本ノ立場トシテ尙ウヘ諒解セシムベキ點ハ十分諒解セシムルヤウニ努メル、斯ウ云フコトヲ私ハ申シテ居ルノデアリマス、此御言葉ニ満足スル者

デハアリマセス、又安心ヲスル者デハアリマセス、管ニ満足シ得ザルノミナラズ、管ニ安心スル者ニアラザルノミナラズ、斯ノ如キ優柔不斷ナル北方ノ外交經過ガ他ノ方面ノ外交交渉ニ反映スル所ナキヤ恐ルル者デアリマス、更ニ恐ルベキハ此事ガ我が外地ノ統治上ニ反映セムコトデアリマス、私ハ是ガ既ニ反映シタトハ申シマセス、將ニ反映セントスルコトヲ恐レルノデアリマス、惟フニ是等ノ憂ハ私一人ノ憂ノミデナクシテ齊シク有識者ノ憂フル所デアルト思フノデアリマス、内外ノ事情斯ノ如ク現在ノ狀勢亦既ニ述ベタル所ノ如クデアリマス、即チ我等ハ前議會ニ議決セシ建議案ノ趣旨ニ鑑ミ、重ネテ一層政府ノ努力ヲ要望シ、斯クテ速カニ本問題ヲ解決シタク思フノデアリマス、是故ニ此建議案ヲ提出シタル所以デアリマス、私ハ茲ニ尙ホ一言ヲ附加スルノ御許シヲ得タイト思ヘマス、其一ハ濱口首相ノ壯烈ナル心事ニ關シテデアリマス、首相ノ會テ不慮ノ災難ニ遭遇セラルルヤ、朝野愕然八千万同胞ノ心配ト同情トハ悉ク大學病院ノ一室首相ノ枕頭ニ集中イタシタノデアリマス、爾後一億六千万ノ眉ハ體溫器一分ノ度盛リノ爲ニ或ハ開ケ或ハ曇リ、將又一匙幾グラムノ藥酒ノ爲ニ或ハ上リ或ハ下ル、斯ノ如キコト幾百度、幾十日、是實ニ首相ノ高潔ナル人格誠實ナル人ト爲リ、尙且ツ爲ス有ルノ實力ト國民ノ信頼トニ是依ルモノデアリマス、而シテ茲ニ又大患ノ後ヲ受ケ羸軀ヲ推シテ萬死ヲ期シ、再ビ總理ノ大任ヲ拜セラル、其決意ヤ見ルベク其心情ヤ悲ムベシデアリマス、男子生レテ宰相ノ印綬ヲ帶ブ、一死君國ニ報ゼムコト

ハ固ヨリ其所デアルトハ申シナガラ、首相ハ業ニ已ニ一死ヲ冒シタルノデアリマス、而モ又奮然トシテ更ニ一死ヲ期ス、思ウテ此ニ至レバ誰人ト雖モ爲ニ涙ヲ注ガヌ者ハナイノデアリマス、次ニ又之ニ類スル我が多數同胞ノ話ヲ御紹介申上ゲマセウ、即チ既ニ水盃ヲ取交ハシ腕ヲ撫シ、門出ノ日ヲ待チワブル二万三千ノ樽取舟子ノコトデアリマス、水盃ト申スノハ水ヲ盃ニ盛リ父母兄弟妻子故舊ト飲ミ交ハス、古來我國ニ存スル永久ノ別レヲ意味スル最モ悲壯ナル一儀式デアリマス、即チ彼等ハ一方會テ自己ノ誓メタル經驗ト境遇トニ顧ミ、他方其父兄先輩ガ會テ肉ヲ破リ血ヲ流シ、斯クシテ得タル權益ヲ確保セムガ爲ニ、慨然トシテ起タムトスルモノデアリマシテ、其壯烈ナル決意將又太和民族ノ心情ヲ發露スルモノデアリマス、次ニ我が國民ノ本問題ニ對スル論議デアリマス、蓋シ其歸趨タル何レモ權益ヲ確保、外交ヲ刷新、而シテ「ソ」國ノ非違ヲ憤ラザル者ハアリマセス、殊ニ本問題ニ關スル新聞紙ノ論調ノ如キハ、既ニ諸君ノ知ラルル如ク、何レモ齊シク初メハ「ソ」國ノ反省ヲ求メ、中頃交渉ノ進捗セザルコトヲ憂ヘ、今ハ即チ齊シク、我が國權益ヲ確保ヲ叫ンデ居リマス、既ニ此三事、首相ノ壯烈ナル心事、出漁者ノ壯烈ナル決意、而シテ尙ホ國論ノ此一致、思ウテ此ニ至レバ一方ニ外交交渉、局面ノ展開ヲ圖リ得テ權益確保ノ事成リ、他方「ソ」國ノ反省ヲ求メ得テ國際信義ノ軌道ニ歸ラ得セシメ、斯クシテ日出ヅル國ノ國人ト日入ル國ノ國民トハ、再ビ舊ノ如ク北洋ヲ隔テテ臂ヲ取リ手ヲ握リ、斯クテ互ニ其幸福ヲ頌ツヲ得ベキカ、我々ハ其然ラム日ノ一日モ速ク到

來セムコトヲ熱望スル者デアリマス
○議長(公爵德川家達君) 坂本男爵

〔男爵坂本俊篤君演壇ニ登ル〕

○男爵坂本俊篤君 本員ハ此決議案ニ賛成スルモノデアリマス、由來北洋ノ開拓ガ我邦人ノ先驅ニ待ツ所アリシコトハ今茲ニ高田屋嘉兵衛、岡宮林造等先覺者ノ歴史ニ迴ルマデモナク、夫ノ明治八年千島樺太交換ノ條約ニモ顯ハレマシタ如ク、其第六款第二項ニハ斯様ニ書カレテ居ルノデアリマス、「日本國船及商人、通商航海ノタメニ「オコッ」海及東「カムチャツカ」ノ海航ニ來リ又ハ其海岸ニ沿テ漁業ヲ營ミ總テ露西亞最懸親國ノ國民同様ナル權利及特典ヲ得ルコト」之ニ依テ見マシテモ當時早ク既ニ邦人ガ彼地ニ渡リ、事實上漁業權ヲ獲得シ居リマシタコトハ明瞭デアアルノデアリマス、降テ明治二十六年ニハ彼ノ報効義會ノ會長郡司大尉ガ、隅田川ニ一葉ノ短艇ヲ屬シ、東都百萬群衆ノ歡呼ノ聲ニ送ラレマシテ、幾多ノ艱難ヲ經テ太平洋ノ波濤ヲ乗切リ、遂ニハ露領「カムチャツカ」ノ半島ト一衣帶水、呼ベバ應ヘムトスル我が極北ノ一孤島タル占守ノ一角ニ、同志ト共ニ根據地ヲ占メ、刻苦經營十有餘年、一ハ北門ノ守リヲ以テ自ラ任ジ、一ハ北洋漁業ニ其身ヲ捧ゲ、遂ニ今日北洋漁業ノ基礎ヲ創立スルニ至リマシタコトハ、今尙ホ吾人ノ記憶ニ新タナル所ノモノデアリマス、郡司大尉ハ本員ノ同僚竹馬ノ友デアリマシテ、彼ハ前途有望ナル所ノ海軍大尉ノ現役ヲ擲テ、北洋漁業ノ開拓ニ其身ヲ投ゼムトスルニ當リマシテ、彼ハ我等同意ノ友人達ニ向テ曰ク、君等ハ今カラ宜シク釣堀ニ絲ヲ垂レテ鮒ヤ鯉ヲ釣レ、俺ハ是カラ去テ北洋ニ大鯨ヲ釣テ見セル

ト、呵々大笑シテ互ニ惜シキ手ヲ別チマシタ、其時ノ彼ノ音容ハ今尙ホ髣髴トシテ本員ノ眼底ニ殘テ居ルノデアリマス、此海國男兒ニ恥ザル彼ノ意氣コソ、纏テ北洋漁業今日ノ盛況ノ基ヲ開ケル先驅者トシテ、彼ハ實ニ北洋漁業界ノ一大恩人デアルト同時ニ、彼ハ國家ニ對シテ偉大ナル貢獻者ノ一人デアルト思フノデアリマス、現行ノ日露漁業條約ハ實ニ其源ヲ「ボーツマス」條約ニ發スルモノデアリマシテ、其第十一條ニハ「露西亞國ハ日本海「オコーワク」海及「ベリリ」海ニ瀕スル露西亞領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セムガ爲日本國ト協定ヲナスベキコトヲ約ス、前項ノ約束ハ前記方面ニ於テ既ニ露西亞國又ハ外國ノ臣民ニ屬スル所ノ權利ニ影響ヲ及ボササルコトニ双方同意ス」斯様ニアルノデアリマス、次デ明治四十年ノ七月二十五日、露都ニ於ケル本野「イズヴォルスキー」協約トナリ、大正十四年一月二十日、北京ニ於テ芳澤「カラハン」ノ基本的法則ニ關スル條約トナリ、最後ニ昭和三年一月二十三日莫斯科ニ於ケル田中「カラハン」調印ニ係ル現行條約ナルモノガソレデアアルノデアリマス、即チ之ニ依テ見マシテモ、此北洋漁業權ナルモノハ、日露戰役、我將士十萬ノ碧血ニ彩ラレタル戰捷記念塔トシテ我が子々孫々ニ傳フベキ極メテ貴重ナル戰利品ナルコトヲ知ルト同時ニ、當年ノ講和大使小村全權ガ、一時ノ賠償金ニハ目モ與レズ、其代價トシテ此國家百年ノ長計ノ基ヲ爲ス所ノ此北洋漁業權ヲ獲得セル其卓見ニハ、今更敬服セシメラザルヲ得ナイノデアリマス、此貴重ナル戰利品タル北洋漁業權ノ運命ガ、將來我國民ノ生存上如何ニ偉大ナル效

果ヲ肅スベキカハ、明治四十年即チ北京條約締結當時ニ於テハ、年ニ二百萬圓内外ノ産額ニ過ギザリシモノガ、現在ニ於キマシテハ我國獨創ニ係ル所ノ公海漁撈蟹工船ノ分ヲ合セマシテ、約六千萬圓以上ノ産額ニ達シ、而シテ其八割即チ約四千八百萬圓ハ何レモ之ヲ海外ニ輸出シ、我が國際貸借ノ上ニ極メテ重要ナル位置ヲ占メ、其國家經濟ニ貢獻スル點ナカラザルモノアルニ顧ミマシテ、此露領沿岸竝ニ「オコツク」海ニ於ケル邦人漁業ノ經營ハ、單ニ一漁業家ノ私利ノ爲メニアラズシテ、實ニ國家經濟ノ消長ニ關スル所ノ國家的企業ト看做スモ敢テ過當デアラザルコトヲ知ルモノデアリマス、然リ北洋漁業ナルモノハ、斯ノ如キ特殊ノ歴史ト我が國家經濟ノ繁榮所、斯ノ如ク重要ナルモノアルニ拘ラズ、近來露國政府ノ爲ス所ヲ見マスルニ、彼ハ漁業條約ヲ無視シ、或ハ其裏ヲ潜リ、又ハ殊更ニ條文ヲ曲解シ、其他種々ノ壓迫手段ヲ講ジテ我が北洋漁業ノ權益ニ向テ、之ニ阻害ヲ試ミムトスルコトハ殆ド枚舉ニ遑ナイノデアリマス、今其目立チタル所ノ重モノナルモノニ付テ諸君ノ御參考ニ供シタイト思フノデアリマス、先ヅ其尤ナルモノノ一ツト致シマシテハ、彼ハ其國營企業トシテ許サルベキ漁獲高ニハ自ラ限度ノアルヲ以テマシテ、彼ハ個人名義ノ假面ノ下ニ漁區ノ入札競賣場裡ニ進出ヲ企テムトスルモノデアリマス、其結果トシテ彼ノ漁業區域ハ日ニ月ニ其進出増加ヲ見ルニ反比例イタシマシテ、我漁業區域ガ日ニ月ニ侵蝕凋落ノ途ヲ進ラムトシツツアルノデアリマス、即チ昭和四年度昭和五年度ノ二回ノ競賣ニ於キマシテ、邦人既得經營漁區ハ四十三箇所、其他邦人ト密接ノ

利害關係ヲ有スル者ノ漁區四十三箇所ガ、彼ノ爲ニ獲得セラレタルガ如キハ即チ其一例デアリマス、尙ホ開ク所ニ依リマスレバ、彼ハ今回新ニ二十八箇所ノ國營漁區ヲ我ニ要求シテ參々ト云フコトデアリマス、其交換條件ト致シマシテハ、豫テ問題ニナッテ居リマス所ノ露貨ノ換算率等ニ付テ幾分ノ讓歩ヲ致スト申シテ居リマスガ、ソレモ我が主張ノ三十錢ドコロデナク三十五錢アタリノ所ヲ以テ、ソレデ折合ハウト云フ、誠ニ蟲ノ宜イコトヲ言フテ居ルヤウニ見エテ居ルノデアリマス、是等ノ行爲ハ全ク條約ノ精神ヲ無視セル所ノ重大ナル違反行爲ト言ハネバナラスノデアリマス、若シ我が政府ニシテ斯ノ如キ彼ノ行爲ヲ看過シ、荏苒解決スル所ナキニ於キマシテハ、日露漁區ノ對比ハ從來八二ノ割合デアリマシタモノガ、今ハ僅ニ日露五分五分、否、ソレスラ之ヲ割ラムトスル現狀マデニ侵蝕サレマシタ、斯ノ如キハ久シカラズシテ往時ノ割合ハ、日露其地位ヲ顛倒スルニ至ラムコトヲ虞ルモノデアリマス、熟シテ國家經濟組織カラ考ヘマスルト、個人ガ斯ノ如キ多大ノ資本ヲ投ジテ、自ラ漁區ノ經營ニ當ル如キハ固ヨリ有リ得ベカラザルコトデアリ、且ツ裏面カラ是等ノ經營者ノ資産狀態ヲ調査イタシマスルニ、其財産ノ如キハ殆ド無一物者デアリニモ拘ラズ、斯カル企業ニ從事スル者アルハ、是レ全ク政府ノ一傀儡トシテ、其個人名義ノ下ニ國營事業ヲ行ハムトスルモノナルコトハ、蓋シ思ヒ半バニ過グルモノガアルノデアリマス、漁業條約ノ第二條ニハ斯様ニナッテ居ルノデアリマス、前略ニ致シマシテ、「右漁區ノ貸附ニハ競賣ニ依リテ之ヲ爲シ日本國民トソウイ

エート」社會主義共和國聯邦人民トノ間ニ何等ノ差別ヲ設クルコトナカルベシ」即チ日露兩國人ハ平等ノ立場ニ於テ競賣ニ從事スルニ當リ、彼ハ「ソウイェート」政府ヲ背景、否、政府其モノヲ向フニ廻シテ、我が漁業者ガ如何程焦リマシテモ到底勝負ノナイコトハ、彼等ハ幾ラ高イ相場ニ於テモ競リ落サウト致シマスレバ、決シテ不可能デハナイノニ反シマシテ、我ハ採算ヲ無視シテ之ヲ行フ能ハザルコトハ當然ノコトデアリマスカラ、名義コソ競賣デアリマスガ、結局此競賣ト云フコトハ無意義ト同意義ニナルノデアリマス、果シテ斯ノ如クバ近キ將來ニ於テ我ハ彼ノ個人名義ノ下ニ國營ヲ行フ者ノ爲ニ北洋漁業場裡カラ撃退滅滅サレマシテ、其運命ハ豫メ知ルベキモノデアルト思フノデアリマス、斯ノ如キ歴史ヲ有シ、斯ノ如キ國家經濟的ノ意義ヲ有シ、最後ニ日露戰役將士十萬ノ碧血ヲ以テ彩ラレタル戰勝記念塔タル所ノ此漁業權ヲシテ、斯ノ如キ運命ニ委スルコトハ、何トシテモ我等ノ堪ヘル所デハナイノデアリマス、我が政府モ亦此企業家ガ斯カル不利ナル立場ニ置カレタルコトニ同情サレ、彼等ニ對抗セムガ爲ニハ、何等カ援助ノ方法ヲ講ズル所アルベシトノ意向サヘモ漏シテ居ルヤウデアリマスガ、援助ト申シテモソレニハ自カラ制限ノアルコトヲ免レヌノデアリマスカラ、限リアル援助ノ下ニ限リナキ彼ノ國營「トラスト」ト戰フモ、到底勝負ノナキハ當然デアリマス、故ニ苟モ我が北洋漁業家ヲシテ將來立行クコトヲ得セシメヤウト致シマスノニハ、結局彼等シテ根本的ニ條約違反ノ行爲ヲ改メシムルヨリ外ニ手段ヲ發見スルコトガ出來ヌト思フノデアリマス、

我々ノ政府ニ期待スル所ノ骨子ハ實ニ此ニアルノデアリマス、惟フニ近來彼ノ北洋漁業ニ對スル進出振リハ、實ニ目覺シキモノガアルノデアリマス、ソレハ新條約ガ締結サレマシテカラ茲ニ僅ニ二箇年、此間ニ彼ハ其條約實施以前ニハ僅ニ四十箇所ニ過ギザリシモノガ、今ヤ一躍シテ二百六十九箇所ノ漁區ヲ獲得スル迄ニナリマシタコトハ、抑、ソレハ何ヲ語ルモノデアリマセウカ、ソレハ露國ガ近來北洋漁業ノ頗ル有利ナル企業ナルコトニ著目ヲ始メマシタル時モ時、恰モ好シ、一方ニハ「スターリン」ノ國內産業開發ノ國策ニ基キ、國家五箇年計畫ノ下ニ有ル農業、工業、漁業等著々其經營ノ歩武ヲ進メマシテ、昨年十月ヲ以テ、既ニ其二箇年ノ計畫ヲ終リ、其成績ハ又頗ル見ルベキモノガアルト云フコトデアリマス、即チ北洋漁業ナルモノモ其一ツニ屬スルモノデアリマシテ、其資金ハ、無慮二十六億留ガソレニ割當テラレテ居ルト云フコトデアリマス、而シテ今年度ノ極東方面諸種ノ事業ニ充ツル爲メ、執行委員カラ中央ニ向テ要求シマシタル所ノモノハ、十億留ト云フコトデアリマシタガ、經濟上其他政治上ノ都合ニ依リマシタカラ、是ハ五億留ガ割當テラレルトニナッタト云フコトデアリマシテ、即チ其中五千五百萬留ガ北洋漁業資金ニ割當テラレタト云フコトデアリマス、元來此露國政府ノ利權政策ナルモノハ、千九百二十年、時ノ執權「レニン」ハ革命以前カラ久シク廢類イタシテ居ル所ノ國內ノ産業工業ノ開發ヲ圖リ、併セテ復興資金ノ吸收ノ爲ニ、利權法ナル法律ヲ發布イタシマシテ、次イデ千九百二十三年ニハ利權委員會ノ官制ヲ公布シ、諸外國ニ對シテ鐵ニ

利權ヲ提供シマシタ所、大小各種ノ企業ヲ出願セルモノハ其當時約二千ヲ數ヘ、内契約ヲ締結イタシタモノハ其割ニ及ンダノデアリマスガ、其條件ノ苛酷ナル等ノ故ヲ以テマシテ、千九百二十六年ニハ其數ハ百二件トナリタノデアリマス、然ルニ「レニン」歿後、「スターリン」ガ政權ヲ把握スルニ及ビマシテ、其政策ヲ一變イタシ、利權回收ノ方法ヲ定メテ、種々辭柄ヲ設ケテ利權企業ニ壓迫ヲ試ミ、「スターリン」就職後三年ノ後ニ於テ、即チ千九百二十九年ニハ利權ノ現存スルモノ僅ニ五十九件ヲ剩スノミニナリタノデアリマス、即チ我ガ北洋漁業ニ對スル壓迫的行爲モ亦此「スターリン」利權回收ノ鋒芒ノ現ハレノ一ツデアリマシテ、我ガ北洋漁業ノ權益モ亦此驅逐の筈ノ下ニ、日ニ月ニ侵蝕サレツツアルコトハ、既ニ前ニ申述べタ通りデアリマス、尙ホ諸君ノ御了解ニ便ニスル爲ニ、更ニ北洋漁業問題ニ絡ハル所ノ日露交渉案件ノ因ヲ爲ス所ノモノ、ソレヲ短簡ニ其概要ヲ列舉シテ見タイト思フノデアリマス、即チ個人名義ノ假面ノ下ニ國營企業ヲ行ヒ、他ヲシテ漁區競賣場裡カラ敗退ヲ餘儀ナクセシメ、合法的ニ全漁區ヲ奪取セムトスルガ如キ潛行的條約違反ヲ敢テセムトスルモノハ其一デアリマス、勝手ニ條約上ノ文意ニ解釋ヲ施シ、之ニ依テ他ノ優良ナル漁區ヲ奪取シテ願ミザル如キモノハ即チ其二デアリマス、國際相場ノ通義ニ依リコトナクシテ、不法ナル換算率ヲ露貨ノ上ニ設定シ、之ニ依テ他ノ採算ヲ不可能ナラシメ、以テ競賣場裡カラ敗退ヲ餘儀ナクセシメムトスルハ其三デアリマス、在浦鹽斯德ノ朝鮮銀行支店ニ強制閉鎖ヲ命ジ、露貨ヲ得ルノ途

ヲ閉ジテ他ヲシテ漁業ヲ續行スルコトヲ不可能ナラシメルモノハ其四デアリマス、公海ニ於テ屢々我ガ船舶ヲ砲撃又ハ拿捕スル等、我國獨創ニ係ル所ノ蟹工船ノ漁業ニ阻害ヲ加ヘタルモノハ即チ其五デアリマス、濫リニ漁區ノ最低價格ノ基礎ヲ變更シ、之ニ高率ヲ課シ、計畫のニ邦人ニ對シ經濟的ニ驅逐ヲ試ミムトスルモノハ其六デアリマス、漁業ノ必需品ニ不當ナ課稅ヲ行ヒ、經濟的ニ壓迫ヲ加ヘムトスルモノハ其七デアリマス、以上列舉セル中、第一及第二ハ國際道義ノ觀念ヨリ見テ、確カニ日露漁業條約ノ精神ヲ蹂躪スルモノナルコトハ疑ノ餘地ナキモノデアリマス、殊ニ昭和三年一月二十三日、日露漁業條約締結ノ際ニ、故後藤子爵ニ與ヘタル彼ノ紳士の聲明ナルモノハ斯様デアリマス、「ソヴィエト」聯邦全權委員ハ「ソヴィエト」聯邦政府ガ漁業條約圈内ノ地方ニ於テ日本國臣民ノ從事スル漁業ノ大ニ經濟的意義ヲ認メ、前記條約ニ從ヒ、日本國臣民ノ正當ニシテ合法的ナル利益力侵害セラルルコトナカラシムルコトニ付適當ノ考慮ヲ加フル用意アルコトヲ聲明ス、此聲明ニ對シテ今彼ノ爲ス所ヲ見マスニ、彼ノ國際信義ナルモノハ何處ニアルカヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、今ニシテ翻然覺ル所ナキニ於テハ、或ハ日露國交上甚ダ好マシカラザル暗雲ニ掩ハレルコトナキカラ慮レルモノデアリマス、又最近最モ信ズベキ所ノ通報ニ依リマスレバ、彼ハ日本ノ漁夫、即チ彼國ノ漁獲ニ從事スル所ノモノ約六千人アルト云フコトデアリマスガ、是等ニ對シテハ最モ深刻ナル赤化ノ運動ヲ行ヒ、彼等ヲシテ赤化スルコトニ非常ニ努メテ居ルト云フコトデアリマシテ、是

ガ再ビ日本ニ歸リマシタ時ハ、實ニ怖ルベキモノト思フノデス、此點ニ付テハ條約締結ノ際ニ既ニ日本ニ於キマシタモ大ニ考慮ヲ費シタモノデアリマス、果シテ斯ノ如クデアルト致シマスレバ、政府當局ニ於テモ、大イニ此點ニ於テ考慮ヲ願ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、由來北洋漁業ノ問題ナルモノハ、近年日露兩國間ノ痼疾トナリタ如キ觀ヲ呈シテ居ルノデアリマス、其發作ハ周期的ニ起ルモノデアリマシテ、渺茫タル北洋ニ春立還リ、其海面ニ氷雪ガ消エ、無數ノ鮭、鱈ガ露領沿海ノ河川ニ上ボル頃、浦鹽斯德ノ漁業廳ニ漁區ノ競賣ノ行ハルル時ニハ、漁區ノ爭奪、競賣ノ紛糾ガ難然トシテ起ルノデアリマス、斯ノ如キハ嘗ニ日本漁業家ノ一大打擊タルノミナラズ、國家經濟ノ見地ヨリモ實ニ測ルベカラザル損失ト言ハナケレバナラヌノデアリマス、我ガ貴族院ハ比年此問題ニ絡ハル日露兩國間ノ糾紛ノ速ニ解決セムコトヲ希望スルガ爲ニ、昨年五十八議會ニ於テ一ツノ建議案ヲ提出シ、只管政府ノ善處ニ期待スル所アリマシタニ拘ラズ、在舊今日ニ於テモ解決スル所ナキノミナラズ、本問題ニ對スル一般ノ物情ハ、露國ノ新産業政策ノ進展ト相俟テ、更ニ一段ノ難關ヲ加ヘムトスルノ觀ナキ能ハズ、其偶々突發セル所ノ鮮銀強制閉鎖ハ、延イテ我國ノ漁業家ノ死活ニ關スル「ループ」問題ノ如キ、一層事態ヲ糾紛ニ導キ、殊ニ來月ノ出漁期ヲ前ニ控ヘナガラ、何等懸案ノ上ニ進展ノ跡ヲ見ル能ハザルコトハ、吾人ノ最モ遺憾トスル所デアリマス、然ラバ此問題ハ遂ニ解決ノ途ナキカト申シマスルニ、本員ハ必シモ然ラズト信ズル者デアリマス、ソレハ外デモアリマセヌ、彼

等ヲシテ其正ニ還ラシムルコトデアリマス、而シテ其正ニ還ラシムルノ重モナルモノハ何カト申シマスルニ、其第一ハ個人名義ノ假面ニ隠レ、國營ノ仕事ヲ行フト云フヤウナ、條約ノ精神ニ違反スル如キ陰險ナル手段ヲ放棄セシムルコトデアリマス、第二ハ條約ノ文句ヲ曲解シテ、他ノ利害ヲ阻害シテ願ミザル、惡辣ナル措置ヲ再ビセザラシムルコトデアリマス、此二ツノ問題コソ、北洋漁業問題ニ絡ハル日露案件中、恐ラク我ガ企業家ノ死命ヲ永遠ニ制スル所ノ其尤ナルモノタルコトヲ信ズルノデアリマス、若夫レ鮮銀閉鎖問題ノ如キ、或ハ留換算率ノ問題ノ如キハ、前ノ條約申ノ根本ニ觸レタル問題ニシテ解決スル所アルニ於キマシテハ、是等ハ寧ロ派生的問題トシテ之ヲ事務的ニ解決スルニハ、自ラ其途ガアルデアラウト信ズルノデアリマス、而シテ之ヲ解決スルニハ宜シク我ハ正ヲ履ンデ恐レザルノ意氣ト決心ヲ以テ、之ニ望ムベキデアルト思フノデアリマス、世ノ中ニ正程強イモノハアリマセヌ、正ヨリ人ノ心ヲ捉ヘ、又人ノ心ヲ動カス力アルモノハナイト信ズルノデアリマス、古人曰ク、斷ジテ之ヲ行ヘバ鬼神モ之ヲ避クト、況ヤ正ハ我ニ在ルニ於テオヤデアリマス、本決議案ノ言葉ハ簡單デアリマスガ、意味ハ頗ル深長デアリマス、政府當局ノ眼光ハ必ズ其紙背ニ徹スベキコトヲ信ズル者デアリマス、是レ此決議案ノ提出ヲ見ル所以デアリマシテ、本員ガ之ヲ贊成スル理由モ亦茲ニ存スルノデアリマス

○議長(公費德川家達君) 本決議案ニ對シテ他ニ發言者モナイト認メマスカラ、採決ヲ致シマス、本決議案ニ同意ノ諸君ノ起立

ヲ請ヒマス

〔起立者多數〕

○議長（公爵德川家達君） 過半数ト認メマス

○議長（公爵德川家達君） 日程第一、無盡業法改正法律案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會、大藏政務次官小川郷太郎君

無盡業法改正法律案

本政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十二日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

無盡業法改正法律案

無盡業法

第一條 本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤、入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ依リ金錢又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スモノ亦同ジ但シ賭博又ハ富籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 無盡ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第三條 無盡業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ定款、事業方法ヲ記載シタル書面及無盡契約約款ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第四條 無盡業ハ資本金三萬圓以上ニシテ拂込金額一萬五千圓以上ノ株式會社

ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第五條 無盡會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用フベシ

無盡會社ニ非ザルモノハ其ノ商號中ニ無盡ヲ業トスル者タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六條 無盡會社ハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第七條 無盡會社ノ營業區域ハ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スベシ

第八條 無盡會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 定款ヲ變更セントスルトキ

二 事業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更セントスルトキ

三 出張所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第九條 無盡會社ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ズ

無盡會社ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケルコトヲ得ズ

第十條 無盡會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券又ハ株式ノ買入

二 前號ノ有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付

第一讀會

三 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トスル貸付

四 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル金額ヲ超過シ契約給付金額ヲ限度トスル貸付

五 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金前項第四號ノ規定ニ依ル貸付金額ハ拂込資本金及諸準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條 無盡會社ガ會社財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルニ至リタルトキハ無盡契約ニ基ク會社ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ズ

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二年間仍存續ス

第十二條 無盡會社並ニ其ノ取締役、監査役、使用人及代理店主ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ自己ノ計算ニ於テ其ノ會社ト無盡契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 無盡會社ハ無盡ノ缺口又ハ掛金ノ拂込ヲ爲サザル者アル場合ト雖モ第一回ノ抽籤、入札其ノ他類似ノ方法ヲ行ヒタル後ハ掛金者ノ不利益ニ給付ヲ變更シ又ハ掛金額ヲ増加スルコトヲ得ズ

第十四條 無盡會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第十五條 無盡會社ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十六條 無盡會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十七條 無盡會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十八條 無盡會社ノ監査役ハ無盡會社ノ業務及財産ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ每營業年度一回作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クベシ

第十九條 無盡會社ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 掛金者ハ無盡會社ニ對シ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ其ノ加入シタル無盡ニ關シ命令ノ定ムル事項ニ付説明書ヲ交付ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 無盡會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十二條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ無盡會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ事業方法若ハ無盡契約約款ノ變更、業務ノ停止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 無盡會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命

ゼラレタル無盡會社ニ對シ其ノ整理ノ
狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ
免許ヲ取消スコトヲ得

第二十七條 無盡會社ノ廢止又ハ無盡會社

ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受タ
ルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十八條 無盡會社ガ其ノ目的ヲ變更

シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存續スル
場合ニ於テハ無盡會社ニ關スル事務ヲ

管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ掛金者

ニ對スル債務ヲ完済スルニ至ル迄財産
ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲

スコトヲ得合併ニ因リ無盡會社ニ非ザ

ル會社ガ無盡會社ト掛金者ニ對スル債

務ヲ承繼シタル場合亦同ジ

第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前項

ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 無盡會社ガ營業ノ免許ヲ取

消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人

ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之

ヲ選任ス其ノ清算人ノ解任亦同ジ

第三十條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所

ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ

以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタル

トキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコト

ヲ得

第三十一條 裁判所ハ無盡會社ノ清算事

務及財産ノ狀況ヲ検査シ、財産ノ供託

ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命

令ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 無盡會社ノ清算、破産又ハ

強調和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ無盡會

社ノ検査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意

見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スル

コトヲ得

第三十三條 無盡會社ノ清算、破産又ハ

強調和議ノ場合ニ於テ無盡會社ノ検査

監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意

見ヲ述ブルコトヲ得

第三十四條 無盡管理會社ハ其ノ管理ス

ル無盡ノ掛金ノ拂込ヲキ場合ニ於テ掛

金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス責ニ任

ズ

第三十五條 無盡管理會社ハ其ノ管理ス

ル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給

付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁

判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル

訴ニ於テハ無盡管理會社ハ原告又ハ被

告ト爲ルコトヲ得

第三十六條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシ

テ無盡會社ヲ營ミタル者ハ三千圓以下ノ

罰金ニ處ス

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監

査役、支配人又ハ清算人ヲ一年以下ノ懲

役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記

載、虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ

官廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ

二 本法ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ

隠蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依

リ検査ヲ妨ゲタルトキ

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ取締役、

監査役、支配人、代理店主(代理店主法

人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社

員、取締役其ノ他法人ノ代表者)又ハ清

算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

但シ其ノ行爲ニ付罰料科スベキトキハ

此ノ限ニ在ラズ

一 第六條、第八條、第九條、第十條、

第十三條、第十四條、第十七條又ハ

第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第七條ノ規定ニ依リ定メタル營業

區域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ

三 無盡會社ガ第十二條ノ規定ニ違反

シタルトキ

四 正當ノ理由ナクシテ第二十條ノ說

明書ノ交付ヲ拒ミ又ハ之ニ虛偽ノ記

載ヲ爲シタルトキ

五 本法ニ依リ無盡會社ニ備ヘ置クベ

キ書類ノ備附若ハ主務大臣ニ提出ス

ベキ書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載ス

ベキ事項ヲ記載セズ又ハ之ニ不實ノ

記載ヲ爲シタルトキ

六 第二十四條、第二十五條、第二十

八條又ハ第三十一條ノ規定ニ依リ主

務大臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ

違反シタルトキ

七 本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ

タルトキ

第三十九條 第十二條ノ規定ニ違反シタ

ル取締役、監査役、使用人又ハ代理店主

(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執

行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表

者)ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ無盡會社ノ取締役

及監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ

處ス

第四十條 第五條第二項ノ規定ニ違反シ

タル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處

ス

第四十一條 非訟事件手續法第二百六條

乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタ

ル過料ニ之ヲ準用ス

第四十二條 本法中主務大臣ノ職權ニ屬

スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方

長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條 本法中無盡會社並ニ其ノ取

締役、監査役、支配人、使用人、清算

人及代理店主ニ關スル規定ハ無盡管理

會社並ニ其ノ取締役、監査役、支配人、

使用人、清算人及代理店主ニ、無盡業

ニ關スル規定ハ無盡管理業ニ之ヲ準用

ス

附則

第四十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

第四十五條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ

受ケタル株式會社以外ノ無盡業者ニシ

テ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法

施行後五年ヲ限り仍其ノ營業ヲ繼續ス

ルコトヲ得

本法中無盡會社ニ關スル規定ハ前項ノ

無盡業者ニ之ヲ準用ス

第四十六條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ

受ケタル無盡業者ニシテ本法施行ノ際

現ニ存スルモノニ付テハ第四條ノ改正

規定ニ拘ラズ本法施行後五年ヲ限り仍

從前ノ規定ニ依ル

第四十七條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受

ケタル無盡業者ニシテ前條ノ期限迄ニ第

四條ノ改正規定ノ要件ヲ具備セザルモノ

ガ其ノ期限迄ニ爲シタル無盡契約ニ付

テハ之ヲ完了ニ至ル迄其ノ契約ニ關ス

ル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ無盡業者ガ前項ノ業

務以外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千

圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 從前ノ規定ニ依リテ免許ヲ

受ケタル無盡業者ノ本法施行ノ際現ニ

有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代

理店ハ本法施行後一年內ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ存續スルコトヲ得ズ

前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月內ニ主務大臣ニ提出スベシ

第四十九條 本法施行ノ際現ニ無盡會社ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第五十條 第四十五條第一項ノ無盡業者ニシテ會社ニ非ザルモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十一條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第四十五條第一項ノ無盡業者ニ付テハ其ノ營業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員)ニ之ヲ準用ス

第五十二條 從前ノ第三十一條第一項又ハ第三十二條ノ無盡業者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十三條 非訟事件手續法第百三十六條、第百三十七條及第百三十八條ノ二中「銀行」ヲ「銀行又ハ無盡業者ハ無盡管理業ヲ營ム會社」ニ改ム

〔政府委員小川郷太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(小川郷太郎君) 只今議題トナリマシタ無盡業法改正法律案、提出ノ理由ヲ簡單ニ説明イタシマス、無盡ハ最モ古キ沿革ヲ有シマス我國固有ノ金融方法デアリマシテ、早カラ津々浦々ニマデ普及シテ居タノデアリマス、現行ノ無盡業法ハ大正四年ニ初メテ制定セラレタモノデアリマシテ、爾來無盡業者ノ適從スベキ基準トシテ、事業ノ發展ニ貢獻シテ參タノデアリマス

ス、併ナガラ其後時勢ノ進運ト本法施行ノ實績トニ鑑ミマシテ、此無盡業ヲシテ一層庶民金融機關タルノ機能ヲ發揮セシメマス爲メ、營業上ノ資金運用ノ範圍ヲ擴張スル外、銀行法、貯蓄銀行法、及信託業法等ノ規定ヲ參酌イタシマシテ、或ハ其營業ノ主體ヲ株式會社ニ制限シ、或ハ無盡會社ノ監督役ヲシテ每營業年度一回、監督書ヲ作製スルノ義務ヲ負ハシムル等、種々ノ改正ヲ加ヘルコトヲ至當ト認メマシタノデ、茲ニ無盡業法改正法律案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ハ抵當證券法案外九件ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第二、自動車交通事業法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、鐵道大臣江木翼君

自動車交通事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十二日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長公爵徳川家達殿

自動車交通事業法案

第一章 自動車運輸事業

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル道路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

主務大臣ハ前項ノ免許ヲ爲スニ當リ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ有効期間ヲ指定スルコトヲ得

第五條 主務大臣ハ自動車運輸事業者ガ免許ノ有効期間満了後仍引續キ其ノ事業ヲ經營センコトヲ申請シタルトキハ當該路線ニ依ル自動車運輸事業ノ不必要其ノ他特別ノ事由ナキ限り期間更新ノ免許ヲ爲スベシ

第六條 自動車運輸事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ運輸開始ノ認可ヲ申請スベシ

第十七條 第一項ノ専用自動車道ヲ開設シテ自動車運輸事業ヲ經營スル場合ニ在リテハ工事方法ヲ定メ前項ノ認可申請前主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

天災其ノ他已ムラ得ザル事由ニ因リ前二項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第七條 自動車運輸事業者事業計畫又ハ専用自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 自動車運輸事業ノ自動車ハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 自動車運輸事業ノ運輸、設備及會計ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車運輸事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 運賃其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ専用自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト

二 路線ヲ延長又ハ變更セシムルコト但シ専用自動車道ノ延長及變更ハ此ノ限ニ在ラズ

三 他ノ運送事業者ト連絡運輸ヲ爲サシムルコト

四 全部又ハ一部ノ路線ヲ共通ニスル數人ノ自動車運輸事業者アル場合ニ共同經營ヲ爲サシムルコト

五 旅客又ハ物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト

六 前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第三號及第四號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ノ之ヲ裁定ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ條件ニ於テ他ノ運送事業者ヨリ事業ノ讓渡又ハ共同經營、會社ノ合併等ヲ求メタルトキハ之ニ應ズベキコトヲ命ジタル場合

ニ於ケル實施方法及收得又ハ負擔金額ニ之ヲ準用ス

第十二條 自動車運輸事業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第十三條 自動車運輸事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
會社ノ合併ニ因ル自動車運輸事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クルベシ

自動車運輸事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車運輸事業經營ノ免許ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部若ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三 許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ
六 道路、自動車道又ハ通路ノ狀況ガ自動車ノ運行ニ適セザルニ至リタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ自動車運輸事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 運輸開始ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

二 運輸開始ノ認可ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ運輸開始ノ認可申請期間内(路線ノ全部又ハ一部ニ付專用自動車道ヲ開設スル場合ニ在リテハ工事施行ノ認可申請期間内)ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

三 專用自動車道ニ付工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

四 專用自動車道ニ付工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

五 專用自動車道ニ付工事施行ノ認可ナキトキ

六 事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

七 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

第十六條 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 自動車道及自動車道事業

第十七條 本法ニ於テ自動車道トハ専ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル道路

(一般自動車道)及自動車運輸事業者ガ其ノ事業用自動車ノ專用ニ供スル通路(專用自動車道)ヲ謂フ

本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ専用自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條 自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十九條 自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ
天災其ノ他已ムラ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十條 自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ延長ニ之ヲ準用ス

第二十一條 自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ヲ爲サントスルトキハ已ムラ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ其ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ニ因リテ生ジタル損害ハ立入り又ハ使用ノ後遲滞ナク事業者ニ於テ之ヲ補償スベシ

前項ノ補償ニ付協議調ハザルトキハ地方長官ノ裁定ス

前項ノ規定ニ依ル裁定中補償金額ニ不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 一般自動車道ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ供用ヲ開始スルコトヲ得ズ

第二十四條 一般自動車道ノ構造、維持、修繕若ハ使用又ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車道事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト

二 一般自動車道又ハ其ノ附屬物件ノ改善ヲ爲サシムルコト

第二十六條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第二十七條 自動車道事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ニ屬スル一般自動車道ノ全部又ハ一部ノ供用ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第二十八條 自動車道事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

會社ノ合併ニ因ル自動車道事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クルベシ

自動車道事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車道事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車道事業經營ノ免許ノ全部又ハ

一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部又ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一 法令又ハ發許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三 主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ヲ竣功セズ其ノ他許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ自動車道事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

二 工事施行ノ認可ナキトキ

三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

四 一般自動車道ノ供用ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

五 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

第三十一條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ガ自動車道ニ接續シ若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ一般ノ道路、自動車道、橋梁、河川、運河、溝渠、鐵道、軌道、索道等ヲ建設セントスルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認

ムルトキハ主務大臣ハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ニ對シ設備ノ共用又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ其ノ實施方法及費用ノ負擔ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ關係主務大臣之ヲ裁定ス自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ノ受ケタル損害ノ補償ニ付亦同ジ

第三十二條 第五項ノ規定ハ前項ノ補償金額ニ之ヲ準用ス

第三十三條 一般自動車道以外ノ自動車ノ通行スル道路ヲ開設シテ使用料金ヲ徵收スル場合ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 共通規定

第三十三條 同一ノ一般自動車道ニ依ル自動車道事業及自動車運輸事業ノ兼營ノ場合ニ於ケル免許、許可及認可ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 主務大臣又ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム、以下同ジ)ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ヲシテ事業上ノ報告ヲ爲サシメ、書類ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

監査員ハ自動車運輸事業者若ハ自動車道事業者又ハ其ノ代表者若ハ其ノ他ノ從業者ニ說明ヲ求メ帳簿、書類及圖面ヲ檢閱スルコトヲ得

第三十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣

又ハ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 國ニ於テ經營スル自動車運輸事業及自動車道事業ニ付テハ第一條乃至第三條、第九條(會計ニ關スル規定ヲ除ク)、第十七條、第二十二條、第二十四條及第五十四條乃至第五十七條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス

國ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營セントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スベシ

第四章 自動車交通事業抵當

第三十八條 自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ全部又ハ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

自動車運輸事業及自動車道事業ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス但シ同法第一章及第三章中登錄トアルハ登記、第四十六條、第六十八條及第六十九條中監督官廳トアルハ登記所、第八十條乃至第八十二條、第八十八條及第九十二條中監督官廳トアルハ裁判所トス

第三十九條 自動車交通事業財團ハ左ニ掲グルモノニシテ同一自動車運輸事業者又ハ同一自動車道事業者ニ屬シ且其ノ事業ニ關スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 自動車道ノ敷地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械

二 發著場、駐車場其ノ他自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地及其ノ上ニ存スル工作物並ニ之ニ屬スル器具機械

三 自動車庫、停留所、貨物庫、給油

所、附屬工場、事務所、事務員駐在所其ノ他事業ノ爲必要ナル建物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械

四 通信又ハ信號ニ要スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械

五 前四號ニ掲グル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權及第三者ニ對抗シ得ベキ賃借權並ニ前四號ニ掲グル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 自動車運輸事業ノ爲登錄ヲ受ケタル自動車及其ノ附屬品

七 事業經營ノ爲必要ナル貯藏物品及器具機械

第四十條 前條第一號乃至第三號ニ掲グル不動產ノ何レモガ存セザルトキハ自動車運輸事業ノ爲ニ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得ズ

自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ハ之ノミニ依リテ擔保セラルル債務ノ額ガ三萬圓以上ナラザルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ自動車運輸事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 同一事業者ガ自動車運輸事業ト自動車道事業トヲ兼營スル場合ニ於テハ兩事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得但シ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカ一方ニ付自動車交通事

業財團ノ設定アリタル後ハ此ノ限ニ在
ラズ

前項ノ事業若ガ各事業ニ付答辯ニ自
車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一
般自動車道ノ地其ノ他專ラ自動車道
事業ニ關スルモノハ自動車運輸事業
爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコト
ナシ

第四十三條 自動車交通事業財團ノ設定
ハ自動車交通事業財團登記簿ニ所有權
保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス
自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保
存ノ登記ヲ爲シタルトキハ第三十九條
ニ規定スルモノハ當然自動車交通事業
財團ニ屬ス但シ第三者ニ對抗シ得ベキ
他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、
假差押若ハ假處分ノ目的タルモノニ付
テハ此ノ限ニ在ラズ

自動車交通事業財團ノ設定後新ニ其ノ
財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦前項ニ
同ジ

第四十四條 自動車交通事業財團ハ之ヲ
讓渡シ又ハ所有權及抵當權以外ノ權利、
差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲ス
コトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ
之ヲ自動車運輸事業又ハ自動車道事業
ヲ營ム株式會社ニ讓渡スハ此ノ限ニ在
ラズ

自動車交通事業財團ニ屬スルモノハ之
ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、
假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ
得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ讓
渡シ又ハ貸付クルハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ規定ニ依リ自動車交通事業
財團ニ屬スルモノヲ讓渡シタルトキハ
抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第四十五條 自動車交通事業財團ノ目的
トスル抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金
四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變
更ト同一方法ノ株主總會ノ決議ヲ經ル
コトヲ要ス

第四十六條 自動車交通事業財團ノ登記
ニ付テハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ
本店所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其
ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス
自動車交通事業財團ノ所有者タル會社
ガ本店ヲ一登記所ノ管轄地ヨリ他ノ登
記所ノ管轄地ニ移シタル場合ニ於ケル
登記手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
左ノ場合ニ於テハ登記所ハ直ニ其ノ旨
ヲ主務大臣ニ通知スベシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登記シ
タルトキ
二 自動車交通事業財團ノ用紙ヲ閉鎖
シタルトキ
第四十七條 自動車交通事業財團ニ關シ
テハ工場抵當法第十條、第十二條、第
十八條乃至第二十條、第二十二條乃至
第四十四條、第四十七條及第四十八條
ノ規定ヲ準用ス
本法ニ規定スルモノヲ除ク外自動車
交通事業財團ノ登記ニ關シテハ不動産
登記法ヲ準用ス
登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十
六條第三號乃至第八號ニ掲グル事項ノ
外左ノ事項ヲ記載スベシ

一 自動車交通事業財團ノ設定セラル
ル事業ノ表示
二 自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通
事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハ
ル路線ノ表示
三 自動車道事業ノ爲ノ自動車交通事

業財團ニ在リテハ之ニ屬スル一般自
動車道ノ表示

四 免許ニ有効期間ノ指定アルトキハ
其ノ期間
五 免許ニ條件ガ附セラレタルトキハ
其ノ條件

第四十八條 第四十二條第一項ノ規定ニ
依リテ自動車交通事業財團ヲ設定シタ
ル場合ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動
車道事業ノ何レカニ付事業經營ノ免許
ノ失效又ハ取消アリタルトキハ抵當權者
ハ一事業ニ付自動車交通事業財團ノ設
定セラレタル場合ニ準ジ財團ノ全部ニ
對シ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得
第四十九條 自動車交通事業財團ニ對ス
ル抵當權ノ強制執行ニ付テハ執行シ得
ベキ一定ノ債務名義ヲ要セズ
強制管理ノ開始ハ自動車運輸事業又ハ
自動車道事業ニ對スル主務大臣ノ監督
ヲ妨ゲズ

強制管理ノ管理人ノ任免ニ付テハ裁判
所ハ主務大臣ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス
強制管理終了シタルトキハ裁判所ハ其
ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ
第五章 罰則
第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 免許ヲ受ケズシテ自動車運輸事業
又ハ自動車道事業ヲ經營シタルトキ
二 認可ヲ受ケズシテ一般自動車道ノ
供用ヲ開始シタルトキ

第五十一條 免許ヲ受ケタル者ノ名義ヲ
利用シテ自動車運輸事業又ハ自動車道
事業ヲ經營シタル者ハ五百圓以下ノ罰
金ニ處ス名義ヲ利用セシメタル者亦同
ジ

第五十二條 自動車運輸事業者又ハ自動
車道事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ
ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五十條ニ規定スル場合ヲ除クノ
外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スベ
キ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルト
キ
二 免許、許可又ハ認可ニ附シタル條
件ニ違反シタルトキ
三 本法ニ基キテ爲シタル處分又ハ免
許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ
基キテ爲シタル處分ニ違反シタルト
キ

四 第八條ノ規定ニ依リ登錄ヲ受ケザ
ル自動車ヲ自動車運輸事業ノ用ニ供
シタルトキ又ハ自動車ニ付不實ノ事
項ノ登錄ヲ申請シタルトキ
五 正當ノ事由ナクシテ一般自動車道
ノ使用ヲ拒ミタルトキ
六 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
ニ依リテ届出又ハ報告ヲ爲スベキ事
項ニ付虛偽ノ届出又ハ報告ヲ爲シタ
ルトキ

七 監査員ノ監査ヲ妨ゲタルトキ
第五十三條 自動車運輸事業者又ハ自動
車道事業者ガ未成年者又ハ禁治產者ナ
ルトキハ本法ノ罰則ハ之ヲ法定代理人
ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一
ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ
限ニ在ラズ

自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者
ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他
ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反
シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ
故テ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

會社ノ代表者其ノ他ノ從業者會社ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ會社ニ適用ス

第五十四條 自動車道若ハ其ノ標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ自動車道ニ於ケル自動車ノ往來ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 人ノ現在スル自動車運輸事業ノ自動車ヲ顛覆シ又ハ破壊シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十六條 第五十四條ノ罪ヲ犯シ因テ自動車ノ顛覆又ハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同ジ

附則

第五十七條 過失ニ因リ第五十四條第一項又ハ第五十五條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ業務ニ從事スル者犯シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ該當スル事業ニ付地方長官ノ爲シタル事業經營ノ免許又ハ許可ハ之ヲ本法ニ依リ自動車運輸事業又ハ自動車道事業經營ノ免許ト看做ス
主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ前項ノ自動車運輸事業ニ付新ニ免許ノ有效期間、運輸開始ノ認可申請期間又ハ事業ノ休止期間ヲ指定スルコトヲ得
登錄稅法第三條ノ六中「又ハ漁業財團登

記簿」ヲ「漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團登記簿」ニ改ム

印紙稅法第四條第一項第一號中「軌道財團」ノ下ニ「自動車交通事業財團」ヲ加フ

〔國務大臣江木翼君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(江木翼君) 自動車ニ關シマスル運輸交通ハ近時非常ナル發達ヲ遂ゲマシテ、公衆ノ日常生活ト密接ナル關係ヲ生ズルニ至ッタノデアリマス、就中路線ヲ定メマシテ定期ニ運行イタシマスル自動車ニ於キマシテハ、交通機關ト致シマシテ重要ナル地步ヲ占ムルニ至ッタノデアリマス、又轉ジテ我國現在ノ道路ヲ見マスルニ、自動車ガ無カッタ時代ノモノガ其大部分ヲ占メテ居ル次第デアリマスルカラ、自動車ノ發達ニ伴ヒマシテ、自動車専用ノ道路ヲモ認ムルノ必要ヲ生ズルニ至ッタノデアリマス、然ルニ是等ノ事業ノ準據法規ト致シマシテハ、自動車運輸事業ニ關シマシテハ僅ニ大正八年ニ內務省カラ出シマシタ所ノ自動車取締令中ニ數箇條ノ規定ガアルニ止マリ、又自動車専用道路ニ關シマシテハ、明治四年ニ制定イタサレマシタル太政官布告ノ規定ガ存在シテ居ルニ過ギナイ有様デアリマシテ、誠ニ時代ノ要求ニ適應シナイノデアリマス、鐵道內務兩省ニ於キマシテハ、現時ノ必要ニ應ズル立法ヲ得タイ方針ヲ以テマシテ、種々研究ヲ重ネマシタガ、就中、自動車運輸事業ニ關シマシテハ、第五十六回帝國議會ニ於キマシテ、貴衆兩院ニ於テ、之ニ關スル請願モ採擇イタサレマシタ次第デ、ソレ等ヲ斟酌イタシマシテ、本法案ヲ提出スルニ至ッタ次第デアリマス、茲ニ提案イタシマシタ自動車交通事業法案ハ、以上

第一讀會

申述ベマシタ交通行政ノ見地カラ、自動車運輸事業ニ關スル事項ヲ規定イタシマスルト共ニ、道路交通ノ補充ノ施設ト致シマシテ、自動車道ヲ開設スルコトノ途ヲ開ク爲ニ、之ニ關スル、事項ヲモ併セテ規定イタシマシタ次第デアリマス、之ニ依ッテ自動車交通ノ完全ナル發達ヲ圖ラムトスル趣旨ニ外ナラナイノデアリマス、今本法案ニ關シマスル要綱ヲ一二申上ゲテ見マスルト、第一ニ本法ヲ適用イタシマスル自動車運輸事業ト申シマスルノハ、一般交通ノ用ニ供スル爲メ、一定ノ路線ヲ定メ、定期ニ自動車ヲ運行イタシマシテ、旅客及貨物ヲ運送スル事業ヲ申スノデアリマシテ、之ニ關スル準據規定ヲ設ケタノデアリマス、是等ノ事業者ハ現在、旅客及貨物ヲ合セ四千人多キニ達シ、其使用イタシテ居リマスル自動車ノ數ハ一萬數千輛ニ及ビ、其營業イタシテ居リマスル哩程ハ約九萬哩ニ及ンデ居ルノデアリマス、第二ニ本法案中ニ規定イタシマシタ自動車道ト申シマスルノハ、一般自動車道及專用自動車道ノ二種類ニ分ケタノデアリマス、一般自動車道ト申シマスルノハ、專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル道路ヲ申スノデアリマシテ、專用自動車道ト申シマスルノハ、前ニ申述ベマシタ如ク、自動車運輸事業者ガ其事業用ノ自動車ノ專用ニ供スル所ノ通路ヲ申スノデアリマス、右ノ内、一般自動車道ヲ開設スル者ハ、特ニ自動車道事業者トシテ、一般自動車ノ通行ニ付キ使用料金ノ徵收ヲ許ス方針ニナッテ居ルノデアリマス、現在、自動車道ト認ムベキモノハ六箇所アルニ過ギマセサガ、其他ニ免許ヲ受ケテ居リマスル者ハ九箇所ニ及ンデ居リマス、自動車交通ノ發達ニ伴

ヒマシテ、漸次増加スルノ機運ニ向ヒツアルノデアリマス、第三ニ以上ノ自動車運輸事業及自動車道事業ノ經營ニ付キマシテハ、從來ハ地方長官ニ其免許ヲ委ネテ居タノデアリマスガ、本法施行ノ上ハ、原則ト致シマシテハ主務大臣ニ於テ免許ヲ爲スノ方針ヲ採ッタノデアリマス、是ハ本事業ノ重要性ニ鑑ミマシテ、當然ノモノト認メタノデアリマス、第四ニ本事業ニ共通ト致シテ居リマスル事項ト致シマシテハ、本法案ノ特色ト致シテ居ル所デアリマシテ、自動車交通事業抵當、所謂自動車交通事業財團ヲ設ケマシテ、其事業財團ヲ抵當權ノ目的トスル制度ヲ設ケマシテ、其事業上ノ金融ヲ滑カニ致シタ點デアリマス、事業ノ發達ニ伴ヒマシテ且ツ將來ノ堅實ヲ進歩ニ資スルガ爲メ、事業財團ノ抵當制度ハ絕對ニ必要ナルモノト信ズルノデアリマス、以上申述ベタヤウナ理由ヲ以チマシテ、本法案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、本法案ニ付キマシテハ、事業者ノ間ニ於キマシテモ、相當熱望イタシテ居ル趣ニ見エルノデアリマスカラ、ドウカ是等ノ事情モ御諒承下サイマシテ、何卒御審議ノ上、速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタス次第デアリマス

○子爵東園基光君 只今議題ニ上リマシタ自動車交通事業法案ハ重要ナル法案ト認メマスルニ依リマシテ、此特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其選舉ヲ議長ニ一任イタシタイト存ジマス、御賛成ヲ願ヒマス

○子爵池田政時君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 東園子爵ノ、本案ノ委員ヲ十五名トスル動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

(起立者多數)

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマ
ス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ
致サセマス。

〔小林書記官朗讀〕

自動車交通事業法案特別委員

侯爵德川 賴貞君 伯爵樺山 愛輔君

男爵大井 成元君 子爵東園 基光君

子爵秋田 重季君 岡 喜七郎君

男爵斯波忠三郎君 男爵辻 太郎君

倉知 鐵吉君 八田 嘉明君

西本健次郎君 土田 萬助君

吉田羊治郎君 松本勝太郎君

風間八左衛門君

○議長(公爵德川家達君) 日程第三、製鐵

業獎勵法中改正法律案、政府提出、衆議院
送付、第一讀會、依商工大臣

製鐵業獎勵法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十四日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

製鐵業獎勵法中改正法律案

附則第二項中「五年間」ヲ「十年間」ニ改ム

附則第三項中「十五年間」ノ下ニ「其ノ十

五年ノ期間ヲ昭和十年迄ニ滿了スルモノ

ニ在リテハ昭和十一年迄」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣依孫一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(依孫一君) 製鐵業獎勵法中改

正法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、

官報號外

昭和六年三月十七日

貴族院議事速記第三十三號

製鐵業獎勵法中改正法律案 第一讀會

重要産業ノ統制ニ關スル法律案 第一讀會 四九一

製鐵業獎勵法ハ大正十五年ニ其全部ヲ改正
ヲ致シタルデアリマシテ、其際ニハ鉄鋼一

貫作業獎勵法云フコトヲ主眼ト致シテ、之

ヲ保護スルコトニナリテ居タルデアリマ

ス、而シテ舊法ノ保護ヲ受ケテ居リマシタ

設備ニ付キマシテモ、俄ニ其保護ヲ廢シマ

スルコトハ穩當ナラザル點ガアリマスルノ

ミナラズ、若干ノ期間、保護ヲ繼續イタシ

マシテ、其設備ノ改善擴張ヲ圖ラシメルコ

トガ適當ト認メマシタ故ニ、附則ヲ以テ保

護ノ期間ヲ五箇年間延長スルコトニ相成

テ居タルデアリマス、然ルニ斯業界ノ狀況

ハ引續キ一般經濟界ノ不況ト深刻ナル國際

競争ニ悩サレマシテ、甚シキ窮地ニ陥リテ

居リマスガ爲ニ、設備ノ改善、擴張モ思ハ

シク拂リマセズ、然ルニ新法施行後既ニ五

箇年ヲ經過イタシテ居リマシテ、舊法ニ依

リマスルモノハ本年四月九日限り一律ニ土

地收用法ノ適用ト輸入税免除ノ特典ヲ失フ

コトニナリマスルシ、又營業收益税及所得

税免除ノ保護モ亦之ヲ受ケナイコトニ相成

リマスガ爲ニ、明年以降段々其特典ヲ失

フモノガ増加スル狀況デアリノデアリマ

ス、今若シ此儘ニ何等ノ處置ヲ講ジマセズ

ケレバ、此斯業界ハ勢カラザル打撃ヲ受ケ

マスルコトニ相成ルコトト思ヒマス、斯ノ

如キコトハ今日マデ折角經營ヲ重ネテ參リ

マシタ製鐵事業ノ上ニ多大ナル惡結果ヲ來

シマスカラ、今暫ク從來ノ保護ヲ繼續スル

コトニ致シタイト考ヘルノデアリマス、ソ

レ故ニ土地收用法ノ適用、輸入税免除ノ保

護ハ五箇年間之ヲ延長イタシマスルト共ニ、

營業收益税及所得税ノ免除ニ付キマシテ

モ、少クトモ今後五箇年間ハ此保護ヲ失ハ

ヌヤウニ適當ナ改正ヲ致シタイト思フノデ

アリマス、何卒御協賛ヲ賜ラムコトヲ希望
イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ハ鑛業法中

改正法律案ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第四、重要

産業ノ統制ニ關スル法律案、政府提出、衆

議院送付、第一讀會、依國務大臣

重要産業ノ統制ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十四日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長公爵德川家達殿

重要産業ノ統制ニ關スル法律案

第一條 重要ナル産業ヲ營ム者生産又ハ

販賣ニ關シ命令ノ定ムル統制協定ヲ爲

シタル場合ニ於テ同業者二分ノ一以上

ノ加盟アルトキハ命令ノ定ムル期間内

ニ之ヲ主務大臣ニ届出ツベシ之ヲ變更

廢止シタルトキ亦同ジ

前項ノ産業ノ種類ハ統制委員會ノ議ヲ

經テ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル産業

ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル事項ヲ主務大

臣ニ届出ツベシ

第二條 主務大臣前條ノ統制協定ノ加盟

者三分ノ二以上ノ申請アリタル場合ニ

於テ當該産業ノ公正ナル利益ヲ保護シ

國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ特ニ

必要アリト認ムルトキハ統制委員會ノ

議ヲ經テ當該統制協定ノ加盟者又ハ其

ノ協定ニ加盟セザル同業者ニ對シテ其

ノ協定ノ全部又ハ一部ニ依ルベキコト

ヲ命スルコトヲ得

益ニ反シ又ハ當該産業若ハ之ト密接ナ
ル關係ヲ有スル産業ノ公正ナル利益ヲ

害スト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ

經テ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ

得

第四條 主務大臣第一條ノ統制協定ニ對

スル監督上必要アリト認ムルトキハ統

制協定ノ加盟者ニ對シ又ハ協定ニ加盟

セザル同業者ニ對シ第二條ノ規定ニ從

ヒ協定ニ依ルベキコトヲ命ゼラレタル

者ニ對シ業務ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報

告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本法ニ定ムルモノノ外統制委員

會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之

ヲ定ム

第六條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタ

ル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第一條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ

百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百

八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ付之ヲ準

用ス

第七條 重要ナル産業ヲ營ム者左ノ各號

ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金

ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命

令ニ違反シ當該統制協定ニ依ラザル

トキ

二 第三條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命

令ニ從ハザルトキ

第八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ

忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命ゼラレ

タル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲

シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 重要ナル産業ヲ營ム者ハ其ノ代

理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業

者其ノ業務ニ關シ第七條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第十條 第七條ノ規定ニ依リ重要ナル産業ヲ營ム者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス
前項ノ期間内ニ爲サレタル本法又ハ本法ニ基キテ爲ス處分ニ違反スル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

〔國務大臣俵孫一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(俵孫一君) 只今議題ニ相成リマシタ産業統制ニ關スル法律案ヲ簡單ニ御説明申上ゲマス、我國産業界ノ目下ノ不況ヲ打開イタシ立直シ行ヒマスニ付キマシテハ、技術ノ點ニ於キマシテ將又經營ノ點ニ付キマシテ合理化スベキ事柄ハ甚ダ多イノデアリマス、就中根本的ノ缺陷ト致シマシテ、總テノ弊害ノ根源ニ相成ルカト思ヒマスモハ企業ノ統制ヲ缺ク點ニアルト思フノデアリマス、中小企業ト云ハズ大企業ト云ハズ、多數ノ企業者ガ全ク無統制、無

節制ノ狀態ニ於キマシテ、無謀不當ナル競争ヲ敢テスルコトガ我が現下ノ經濟界ノ通例ニナッテ居ルト思ハレルノデアリマス、其結果ハ我が商品ノ海外販路ノ進出ヲ妨グルニ止マラズ、更ニ各企業家ハ共倒レノ狀態ト相成リマシテ、我重要産業其モノノ存立ヲ危殆ニ陥ラシムル如キ狀態デアアルノデアリマス、延イテ我國國民經濟ニ及ボス損害ハ、極メテ大ナルモノガアルト存ズルノデアリマス、此故ニ此現狀ニ鑑ミマシテ、少クモ我ガ重要ナル産業ニ對シマシテ、規律統制ヲ與ヘ、其安定ヲ圖ルコトガ最モ急務デアアルト思フノデアリマス、是本案ヲ提出イタシマシタ所以デアアルノデアリマス、本案ノ細目ニ至リマシテハ、詳細委員會ニ於テ説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、會期切迫ノ折柄デアリマススケレドモガ、極メテ重要法案デアアルト考ヘマス故ニ、慎重御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ニハ藤村男爵ノ質疑ノ通告ガアリマス、男爵ニ發言ヲ許シマス

〔男爵藤村義朗君演壇ニ登ル〕

○男爵藤村義朗君 私ハ本案ニ付キマシテ二三政府ニ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、近頃此合理化トカ或ハ統制ト云フ言葉ガ一種ノハヤリ言葉ニナリマシテ、色ミ私共ノ思ヒモ寄ラヌヤウナ場合ニ合理化、統制ト云フヤウナコトガ使ハレテ居ルノデアリマス、又統制或ハ合理化ト云フ意義ニ

付キマシテモ、飛ンデモナイ間違、タ解釋ヲ附シテ、平氣デ居ラルル向キモ多々アリマス、而シテ合理化ト云ヒ、或ハ統制ト云ヒサヘスレバ、其事ハドンナ事デモ宜イコトノヤウニ考ヘラレテ居ルヤウニ思フノデアリマス、私ノ了解致シテ居リマス所ニ依リマスレバ、此産業ノ合理化ト申スコトハ、生産ヲ増進セシメテ、サウシテソレニ依ッテ生産原價ノ低下ヲ圖テ、其結果ト致シテ物價ヲ低落セシメテ、之ニ依ッテ國民生活ノ向上安定ヲ期スル、即チ低物價政策ト云フコトガ此合理化本來ノ目的使命デアアルカノヤウニ存ジテ居ルノデアリマス、此意味ニ於キマシテ、産業ノ合理化ト申スコトハ、經濟政策ト致シマシテハ、極メテ重要ナル價値ヲ持ッテ居ルモノト認メル次第デアリマス、而シテ今回政府ハ産業合理化ノ基準トシテ、先ヅ第一ニ産業上ノ自由競争主義ヲ改メマシテ、相當強イ程度ニ國家ノ權力ニ依ル干涉ヲ認メルト云フコトヲ主眼トシテ居ラレルヤウニ存ズルノデアリマス、即チ先達テ茲ニ上程サレマシタ輸出組合法及重要輸出品工業組合法ノ改正案ニ致シマシテモ、又今日此重要産業ノ統制案ニ致シマシテモ、其趣旨ノ下ニ發案サレタモノト思フノデアリマス、此コトハ我國ノ産業ノ根本ニ對シマシテ將來ニ於テ尠カラヌ重大ノ影響ヲ來スモノト認メラレルノデアリマス、元來産業振興ノ根本義ハ、只今申シマシタ通りニ、生産ノ増進ト之ニ依ル生産原價ノ低下ニアリマシテ、サウシテソレハ産業

企業ノ科學化及モ機械化ニ依ッテ、最高度ニ生産ノ工程ト能率トヲ發揮セシメテ、而モ最モ合理的ニ又最モ經濟的ニ其目的ヲ達セシムルニハ、事業ノ計畫組織經營管理ノ如キハ完全ナル自由ヲ與ヘマシテ、公正ナル競争ニ依ッテ、企業者自ラ努力向上效果ヲ擧ゲシムルニアルト、私ハ考ヘルノデアリマス、此産業經營ノ自由主義ト云フコトガ、是コソ經濟自治ノ根本デアリ、又經濟生活ノ基礎ヲ爲スモノデ、今日ノ經濟組織ハ總テ此基礎ノ上ニ樹立サレテアルノデアリマス、サウシテ是ガ國民經濟ノ健全、堅實ナル進歩發展ヲ來ス所以デアアルト思フノデアリマス、此根本義ガ認メラレテコソ初メテ、其處ニ種々ノ同業者間ニ於ケル協調ガ生レ、又自然ノ統制ガ起ッテ、而シテ更ニ優勝劣敗、適者生存ノ自然ノ理法ガ其處ニ行ハレマシテ、本當ノ合理化ノ結果ガ實現セラレルト云フ風ニ、私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ハ只今商工大臣ヨリ御説明ノ如ク、我が産業界ノ根本的ノ弊害、缺陷ハ企業ノ統制ヲ缺クノニアル、其爲ニ無規律、無節制、無謀等ノ競争ヲ敢テシテ、産業ノ存在ヲ危殆ニ導ク、故ニ國家ノ力ニ依ル規律統制ニ依ッテ、産業ノ安定ヲ圖ルコトガ急務デアアル、此趣旨ニ依ッテ本案ヲ御提出ニナッタノデアリマス、我國ノ産業界ノ現狀及ビ我が企業者ノ實際ノ有様ニ徴シマシテ、政府ノ憂ヘテ居ラレル所ハ或程度迄ハ全然我モ御同感デアリマス、如何ニモ我が産業界ハ歐米ノ先進國ニ比ベマスレバ、

組織モ整備シテ居リマセヌ、又經營管理ノ方法モ比較的ニ御粗末デアリマス、又計畫秩序ノ如キモノ向立ツテ居ラス、殊ニ事業家、企業家ノ心理ト云フモノハ、概シテ自分ノミヲ利益スル、所謂利我ノ一點張リデ社會奉仕デアルトカ、或ハ共存共榮トカ、或ハ共同協力トカ云フヤウナ觀念ハ、頗ル缺乏シテ居ルヤウニ存ジテ居リマス、是ハ私モ平生甚ダ面白カラズ感ジテ、密カニ憂ヘテ居ル所デアリマス、從ヒマシテ粗製濫造或ハ投資濫賣デアルトカ、又ハ不正不當ノ競争ノ弊ヲ矯正スル必要ハ是ハ十分認メラレルノデアリマス、サウシテソレハ或程度マデ法制ノ力ニ依ルコトハ、我が産業界ノ現状ニ於キマシテ已ムヲ得ナイカモ知レマセヌ、併ナガラ大體ニ於キマシテハ、企業者自身ノ覺醒努力ニ待ツベキデアリマシテ、政府行政手段デ以テ之ヲ強制シマシテモ、到底企業者自身ガ自覺スルニアラズンバ、統制ノ如キハ出來ルモノデハナイト、私ハ思ヒマス、私ハ國家ガ主義トシマシテ、又原則トシマシテ、茲ニ今日迄ノ産業ノ自由主義ヲ改變サレルト云フコトハ如何ナモノデアラウカ、餘程慎重ニ考慮ヲ要スベキ問題デハナイカト思フノデアリマス、此法案ハ申セバ少數企業者ノ生産又ハ販賣ノ獨占ヲ認メテ、統制ノ強制力ヲ其以外ノ同業者又ハ之ニ反對スル同業者ニマデ及ボサムトスルモノデアリマス、從ツテ營業ノ自由ヲ束縛シ、獨占ノ弊ヲ助長シヤサト云フモノデ、多クノ場合

ニハ社會全體ノ利益、殊ニ消費諸側ノ利益ニハ反スル結果ヲ招キ易イ性質ノ法律デアルト思フノデアリマス、或ハ政府ニ於カレマシテハ、ソレハ此規定ニモアル通り公平ナ利益ヲ害スルコト認メタル場合ニハ、變更或ハ取消ヲ命ズルコトガ出來ルト云フ風ニ御考デアルカモ知レマセヌガ、其事ハ實際ニ於キマシテハ非常ニ困難ナ問題デハナイカト思フノデアリマス、政府ハ統制委員ニ諮問シテ、更ニ之ヲ決スルト仰セラレマスガ、惜デ此委員會ナルモノハ、從來ノ例ニ徴シマスルト云フト、頗ル當テニナラヌモノデアリマス、多クノ場合政府ガ造ラレマスル委員會等ハ唯、唯々諸々政府ノ思召通りニナル、申セバ政府ノ意思ノ裏書ノ機關デアアル、或ハ政府ノ責任回避ノ機關デアアルト申シテ宜シト私ハ思フ、國民ノ重要産業ヲ、極メテ少數ノ委員會ガ、事實ニ於テハ、管理左右スルト云フ結果ニナリマスルノデ、誠ニ實際問題トシテハ容易ナラヌ問題デアルト、私ハ思フノデアリマス、而シテ其發案者タル、或ハ諸閣者タル政府ハドウデア

ル所ノ、篇三條トカ何トカ申ス産業ノ統制ガ出來マシタ爲ニ、四十錢ノ工資が一躍七十錢ニ騰、デシマツタ、サウシテ其當業者ハ從來此品物ガ高イカラ賣レヌノデハナイ、市場ガ不安ノ爲ニ取引ガ無いノダト云フヤウナコトヲ呼號イタシテ居ルノデアリマス、此篇三條ハ全部輸出品デアリマスルノデ、内地ノ消費者ニハ差向ノ交渉ハナイヤウデアリマスルケレドモ、斯様ナコトデ生産費ノ引下ゲニ依ッテ、力強い消費需要ヲ喚起シヤウト云フ政府ノ努力ハ或ハ水泡ニ歸シテ、政府ノ根本方針トハ至ク反對ノ結果ニ陥ルハシナイカト云フコトヲ私ハ心配イタシテ居リマス、ドウモ政府ノ合理化政策ト云フコトハ、遂ニハ市價ノ昂上ゲニナツテ來ハシマス、今日迄ノ有様ヲ見テ見マスルト、政府ノ方策ハ販賣價格ノ人爲的協定維持ト云フコトニ、重キヲ置イテ居ラレマスルヤウデアリマスルケレドモ、左様デアルトシマスレバ、ソレハ經營ノ合理化ヲ後却シマシテ、合理化ノ精神デアアル低物價政策ニハ根柢的ニ反シテ居ルモノデアルト思フノデアリマス、或ハ又政府ノ統制ノ當面ノ目的ハ、需給ノ調節ノ如キ……需給ノ調節ニ依ッテ市價ノ安定ヲ圖ルコトガ本旨デアルト云フコトヲ言フテ居ラレヤウデアリマス、果シテ左様デアリマスレバ、大分話ガムヅカシクナツテ來ルノデアリマス、政府ハ消費節約ト云フコトハ、是ハ政府ノ重要ナル經濟政策デアルト云ツテ、強硬ニ今日今以テ主張シテ居ラレマスルガ、若シ此消

費節約ト云フ政策ノ利キ目ガ十分ニ現ハレテ參リマスレバ、結局ハ生産ハ段々減、テ來ルノミデアリマス、需給ノ調節ガ合理化統制ノ目的ナラバ、消費ノ減少ニ從ッテ、生産ヲモ減少シナケレバナラスト云フヤウナ結果ニ陥リハシマス、私ハ、サウスレバ政府ノ合理化事業ハ低物價政策デハナクテ、低生産政策ト云フコトニナルヤウニモ見ラレ得ルノデアリマス、茲ニ政府ノ重要ナル此二ツノ經濟政策ニ大キナ矛盾撞着ガ起、テ來ルヤウニモ思ハレル、斯様ニ私ハ心配シテ居ルノデアリマス、ケレドモ、無論是等ノ事柄ハ委員會デ篤ト審議サレル事項ト思ヒマスノデ、此上ハ申シマセヌ、唯先ヅ第一ニ政府ニ伺ヒタイノハ、政府ハ此法律ニ依ッテ個人ノ企業、營業ノ自由ヲ束縛サレテ、活潑ナル經濟活動ヲ阻止シテ迄モ統制ヲ必要ト認メラルヤ否ヤ、我が産業ノ根本ニ對スル政府ノ主義方針ハ自由主義デアアルカ、或ハ只今申シタ統制ニ依ル束縛主義デアアルカト云フコトヲ明カニ伺フデ置キタイノデアリマス、ソレカラ第二ニハ産業ノ公正ナル利益ト云フコトハ一體是ハドウ云フコトデアリマスカ、此法律ガ、此公正ナル利益ヲ支持シ擁護スル上ニ於テ、政府ハ、何等ノ遺憾モナイト云フ保證ヲ、責任ヲ以テ國民ニ御與ヘニナルコトガ出來ルカドウカ、即チ此規定デ統制ニ關スル運用ガ満足ニ合理的ニ爲サレ得ルト云フ確信ガ御有リニナルカドウカト云フコトヲ第二ニ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ更ニ第三ニ政府ニ御

確メヲ致シテ置キタイコトハ此企業ノ統制ヲ國家ノ干涉ニ依リテ圖ルト云フコトハ、其結果ハ「カルテル」トカ或ハ「トラスト」トカ云フモノヲ國家ガ管理スルト云フヤウナ形ニナリマス、即チ勞農露國政府ノ「ネプ」新經濟政策ト同ジヤウナ道行ニ進ミツツアルヤウニモ見ラレル、少クモ政府ノ頭ニハ意識の力或ハ無意識の力知リマセヌケレドモ、「ソヴィエト」ノ統制經濟ノ思想ト云フモノガ滲ミ込シテ來テ居ルノデハアルマイカト云フ疑問モ起リ得ルノデアリマス、又サウデナクテモ政府ノ思想ハ或ル意味ニ於テハ國家社會主義ニ進ム是ガ道程デアルトモ見ラレ得ルヤウニモ考ヘラレルノデアリマス、是ハ大事ナコトデアリマスルカラ、ドウゾ政府ノ御意思ノアル所ヲ明確ニ伺フテ置キタイデアリマス、其次ニハ只今商工大臣ノ仰セラレマシタ無謀、不規律、不正ノ競争ヲスルト云フ此弊害ハ、大企業ヨリハ寧ロ中小ノ企業ニ多イヤウニ私ハ思フノデアリマス、大企業ハ其生産ノ工程ニ於キマシテモ、或ハ又經理……經營、管理ノ方法ニ於キマシテモ、比較的整ウテ居リマス、又經營者モ其從業者モ相當ノ人ガ多イノデ合理化ノコトモ、統制ノコトモ大分モウ分ッテ居ル連中デアリマス、是等ノ大企業ニ向ッテ特ニ此法律ヲ以テ統制ヲ圖ルト云フ、實際ソレ程ノ必要ガアルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、世間デハ或ハ此法律ハ統制ト云フ美名ノ下ニ、是等ノ大企業ニ向ッテ聯盟デアルトカ或ハ合同

デアルトカ云フコトヲ容易ナラシメテ、彼等ノ現在居ル所ノ經營ノ困難ヲ人爲的ニ救済セントスル一種ノ救済政策デアルト云フ風ノ考ヲ持ッテ居ル者モアルサウデアリマス、マサカソノナコトハ無イト思ヒマスケレドモ、之ニ付キマシテモ一應政府ノ御意思ヲ伺フテ置キタイノデアリマス、尙ホ産業ノ合理化ト云フコトニ關聯シマシテ、此際序デナガラ伺フテ置キタイ、今日我が事業界ニハ色ミノ弊害、缺陷ガ澤山アルノデアリマス、或ハ會社ガ虚偽ノ計算表ヲ作製シテ株主ヤ公衆ヲ欺イタリ、當然爲スベキ減價ヤ減損ノ銷却ヲ等閑ニナシタリ、或ハ虚偽ノ利益ヲ發表シテ所謂配分ナドヲヤツタリ、或ハ會社ノ巨額ノ金ヲ使ッテ利權獲得ノ不都合千萬ナル醜惡ナル運動ヲヤツテ見タリ、官憲ニ請託シテ不義ノ利益ヲ擧ゲテ見タリ、或ハ政黨ヤ政黨員ニ向ッテ現在又ハ將來ノ利益ノ爲ニ會社ノ資産ニ屬スル巨額ノ金ヲ冥加金トシテ提供シタリ、色ミ様ミナ惡イコトヲシテ居ル、是等ハ皆是等ノ經營者ガ、經營者ヲ信頼シテ居リマスル所ノ罪ノナイ株主、投資者ニ非常ナ損害ヲ與ヘルモノデアリマス、而シテ延イテ社會ノ公益ヲモ害スルモノデアリマス、是等ノ經濟界ニ於ケル弊害ハ政府ニ於カレマシテモ能ク私ハ御認メニナッテ御出デニナルコトト思フノデアリマス、産業合理化ノ一部ト致シマシテモ、斯ノ如キ弊害ハ徹底的ニ矯正ヲ計ル必要ガアルト思フ、寧ロ此産業統制ナドト云フコトヨリハ、斯ウ云フ方ノ

實際惡イ弊害ヲ矯正スルノ方法ヲ御講ジニナツタ方ガ、ドレ程實際ノ利益ガアルカ知レヌト私ハ思フ位デアリマス、此コトニ付テ政府ハドウ云フ御考デ居ラレルカ、若シ事實ヲ御認メニナリマスルナラバ、此際必要ガアルナラバ、商法其他法律ノ改正等ニ依ッテ、斯ノ如キ弊害ヲ根絶スル御意思ガアルカドウカト云フコトヲ序デナガラ伺フテ置キマス、此産業合理化ト云フコトニ關スル政府ノ運動ハ、既ニ臨時産業會議會及臨時産業管理局ガ設立サレマシテ以來相當ノ日ガ既ニ經ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ實蹟トシテ世間ニ現ハレテ居リマスルモノハ、先程申シマシタ何トカ申スモノノ統制ノミデアリマス、時局ニ鑑ミマシテ最モ急務ト政府モ國民モ認メテ居リマスル此重要政策ニ對スル産業合理化事業ト致シマシテハ、誠ニ何ダカ物足ラヌ感ジガ致スノデアリマス、先年亞米利加ノ「フーヴァー」氏ガ僅ニ數箇月ノ間ニ米國ノ全産業ノ立直シヲ實行シマシタ手際ニ比較イタシマスト云フト、今日政府ノナサレ方ハ人力車ト飛行機ノ差ガアル位ニ、私ハ考ヘテ居ル、ドウモ今日ノ「スピード」時代ニハ不似合千萬ナル緩慢振リト思フノデアリマス、勿論政府當局モ或ハ多數ノ委員ノ方ミノ精勵努力ハ十分認メル次第デアリマスルケレドモ、唯徒ラニ組織ノ形式トカ、或ハ臆立ノ審議ヲサレルトカ、或ハ又抽象的ノ議論乃至外國ノ翻譯書ノ本讀ミナドニノミ没頭サレテ居リマシテ、テキパキト實行のニ是ガ解決シテ行

カスト云フコトハ、何ダカ遺憾ニ私ハ考ヘルノデアリマス、殊ニ中小ノ商工業者ノ如キハ殆ド全部没落ノ悲運ニ際會シテ居ルニモ拘リマセズ、其合理化ト云ヒ、或ハ金融ノ改善ト云ヒ、是等ノ適當ナル解決ハ急務中ノ急務デアアルニ拘ラズ一向ニ拂ッテ居ラス、私ハ間違ッテ合理化ハ眞平ヲ御免ヲ蒙リタイノデアリマス、ケレドモ本當ノ合理化ナラバドウヤ、戴キタイ、政府ノ勇斷ト決心次第直ニ解決ノ出來ル問題ハ澤山アラウト思フノデアリマス、勿論當業者ノ自發的自覺的努力ト云フコトハ、是ガ最モ必要デアアルノデアリマス、ケレドモ併ナガラ政府ノ指導誘掖ト云フコトヲ主ニシテ、今日ノ時局ニ善處サレルト云フコトガ、政府トシテハ一ツノ重要ナル方策デハナイカト思フノデアリマス、唯此經濟ノ改善ト云フコトニ一ツツ法律ヲ改正ヲスルトカ、或ハ新シイ法律ヲ作り出スト云フヤウナコトノミヲ致シテ居リマシテハ、到底何事モ成功シ得ラレヌト云フ風ナコトニ陥リマスル爲ニ、私ハ甚ダ失禮デハアリマシタガ、率直ナコトヲ申上ゲテ、政府ノ御考慮ヲ煩シタイト云フ趣意デ、此三四ノ質問ヲ致シタ次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 此際午後一時三十分マデ休憩イタシマス

午後零時三十一分休憩

午後一時四十九分開議

○副議長(公爵近衛文麿君) 書記官ヲシテ報告イタサセマス

〔瀬古書記官朗讀〕

本日輸出組合法改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 侯爵大久保利武君
副委員長 男爵中島久萬吉君

○副議長(公爵近衛文麿君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、依商工大臣

〔國務大臣依孫一君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(依孫一君) 午前ノ藤村男爵ノ御質問ニ對シマシテ御答ヲ致シマス、第一ノ御質問ハ本案ハ産業合理化ノ精神ニ矛盾ハナイカト云フ意味ノ御尋ネデゴザイマシタ、藤村男爵ハ産業合理化ノ意義、世間ニ往々似テ非ナルモノガアルガ、産業合理化ニ於テハ其精神ハ良品廉價ト云フコトガ根柢アル、生産費ヲ低下セシムルト云フコトガ根本アル、ソレハ産業ノ自由競争ト云フ所ニ其根柢ガアルヤウニ思フ、斯ウ云フヤウナ意味ノ御話ヲ前提ニ置イテ爲サレマシタ、私ハ藤村男爵ノ此御説ニ對シマシテハ全然同感デアリマス、政府ガ産業合理化ヲ設ケ、産業ノ合理化ヲ徹底セシメタイト云フコトハ藤村男爵ノ御話ノ通りデアリマス、唯斯ウ云フ立場ノ下ニ於キマシテ何故ニ然ラバ此法案ヲ出スカ、先刻モ説明申上ゲタガ如ク、目下ノ産業界ノ狀態ガ無謀ノ競争ヲ致シマシテ、自分ノ生産原價ヲ切ツテマデ競争ノ結果共倒レニ相成ル狀態デアルノデアリマス、殊ニ私共ノ産業界ノ前途ノ爲ニ悲シミマスコトハ、輸出貿易ニ於キマシテ殆ト外國消費者ガ要求セザル以下ニ

自己ノ賣リ値段ヲ崩シマシテ、自カラガ一人損失ヲ被ルダケデハナイ、却テ價格ノ不安定ノ爲ニ其輸出ヲ阻害スルガ如キ狀態ニアルノデアリマス、畢竟スルノニ、是レ餘リ同業者間ノ統制ノ無キ爲ニ徒ラナ、不當ノ競争ヲスルト云フコトニ原因スルノデアリマス、此法案ハサウ云フ産業狀態ニ對シマシテ、茲ニ同業者間ノ統制ヲ付ケテ、無謀ノ競争ヲ抑制シ、價格ノ不安定ヲ安定セシメルト云フノガ趣旨デアリマス、合理化ノ仕事ガ出來得ルダケ生産費ヲ低下スル、無駄ヲ省キ、能力ノ増進シテ、出來得ルダケ生産費ヲ低下スル、是ハ合理化運動ノ最モ骨子デアリマスケレドモ、併ナガラ不當ニ生産費ヲ切ツテ損失ヲシテマデ自ラガ倒レ、從テ此産業ヲ傷ツケルヤウナ現今ノ無謀狀態ノ競争ガ決シテ合理化ニ適タモノデナイト思フノデアリマス、ソレ故ニ統制ヲ付ケルト云フコトハ、決シテ合理化ノ趣旨ニ反對シナイモノデアアル、矛盾シナイモノデアアル、我々共ハ競争ハ其産業ノ發達ノ根柢デアリマスケレドモ、男爵モ仰セデアッタガ如ク、我々ハ自由競争ノ下ニ公正ナル競争ヲ希望シテ居ルノデアアル、無謀ノ競争ハ我々ハ何處マデモ排斥シタイ、無謀ノ競争ヲ去ラシムルコトガ總テ國民經濟ノ發達ニ……健全ナル發達ニ一致スルノデゴザイマス、此法案ガ或ハ物價ヲ釣り上ゲル、價格釣り上ゲノ結果ヲ來シハセヌカト云フコトデアリマスケレドモ、ソレニ對シマシテハ私共ハ第三條即チ男爵ノ御引用ニナラ

タ如ク、第三條ハ世ニ所謂「カルテル」ニ對スル所ノ強制規定デアリマス、價格釣り上ゲノヤウナ協定ヲスルヤウナ場合ニ於テハ、第三條ニ依テ十分ニ之ヲ強制シ得ルモノデアアル、斯ウ考ヘマス、第二ノ御尋ハ此法案ヲ以テ第三條ガアルトハ申シテ居ルガ、果シテ國民消費者ノ利益ヲ確保スルダケノ確信ガアルカ、私共ハ只今申上ゲマシタ如ク、世界ノ一般ノ經濟的趨勢ハ、當業者自身ノ利益ヲ共同ニ保護ヲシマス爲ニ「カルテル」ヲ造リ、或ハ「トラスト」ヲ造ル、此弊害ニ國民一般ハ各、惱マサレテ居ル、我國ニ於キマシテハ寧ロ只今申上ゲマス如ク、當業者ノ無謀ノ競争ニ禍ヲサレテ居ル、ソレ故ニ本案ノ第一條、第二條ト申シマスモノハ、其統制ヲ付ケルト云フ點ニ於テ、大イニ其理由ヲ存シテ居ルノデアリマスルガ、併シ其「カルテル」ニ禍サレテ居ルト云フ世界ノ産業國ノ實蹟ニ鑑ミマシテ、我々共ハ第三條ヲ置イテ特ニ「カルテル」ノ弊害ヲ矯正スルト云フ考デアアルノデアリマス、公正ノ利益ニ反スル、公益ニ反スルト云フ第三條ハ……私共ハ此第三條ノ公益ニ反スルト云フ規定ノ運用ノ結果ト致シマシテ、大變ニ漠トシタル文字デアリ、或ハ權限ノ廣イ文字デアリマセウケレドモ、此公益ニ反スルト云フコトノ規定ニ依テ、其「カルテル」ノ弊害ヲ除去シ得テ、以テ一般國民消費者ノ利益ヲ確保シ得ルモノト信ズルモノデアリマス、勿論是ハ運用ニ於テ單リ主務大臣ガ之ニ當ルノミナラズ、之ニ對シマシテハ權

威アル統制委員會ノ議ニ依テ之ヲ行フノデアリマス、第三ニハ統制ト云フ、國家ノ統制ノ思想ト云フモノガ、或ハサウデモナイカモ知ラヌケレドモ、ソレ「ソヴィエト」ノ國家統制思想ト云フコトニ或ハ似通テ居ハセヌカ、又國家社會主義ト云フコトニ、此統制ト云フ案ガ基イテ居ルノデハナイカ、私共ハサウ云フ御心配ノヤウナ考デハ勿論アリマセヌ、唯自由競争ノ弊害ガアリマスル時ニ於テ、此自由競争ニ付テ國家ガ禍サレ、國家ノ産業ガ禍サレル時ニ於キマシテ、之ニ對スル必要ナル制限ヲ加ヘルト云フコトハ、蓋シ國家ノ當然ノ任務デアルト考ヘルノデアリマス、而シテ世間デハ此統制案ガ如何ニモ劃時代的デアルト申シテ居ルノデアリマスガ、是モ藤村男爵ハ御承知デアラル、ト考ヘマスルガ、現今同改正ヲ致シマシタガ、重要輸出品工業組合法ノ第十條デシタカ、九條デシタカ、條文ハ今確カニ記憶シマセヌデアリマスガ……六條デシタカ、其組合ニ於テ組合ノ弊害ヲ除去スル爲ニ必要ナル場合ニ於テハ、主務大臣ノ認可ヲ得テ、所謂「アウト・サイド」、第三者ニ向テ、此組合ノ制限ヲ申合セノ協定ヲ強制シ得ルト云フ規定ガアリマス、本案ノ第二條ノ精神ト同様デアリマス、蓋シ是ハ工業組合ノ組合員ノ相談ノ結果ト致シマシテ、同業者間ノ弊害ヲ除去スル爲ニハ、工業組合ハ任意デアリマスルカラ、從テ其組合員ニ加入シナイ者ガアル、其第三者ニ對シマシテハ、其組合デ以テ決メマシタ或制限

ヲ組合外ノ第三者ニ及ボスコトガ出來ルト云フ規定ガアリマス、即チ第二條ノ加盟セザル所ノ者ニ對シテ統制協定ヲ強制スルト云フ規定ト精神ニ於テハ同様デアリマス、蓋シ是ノ規定ハ何レモ今申シマスル通りニ、産業ノ發達ノ上ニ於キマシテ、國家ノ必要ノ統制力ヲ此産業ニ及ボシ、以テ産業ノ發達ヲ圖ルト云フ精神ニ外ナラヌデアリマス、第四ニハ無統制ノ狀態ハ中小工業ニ於テ專ラ有ルノデアアル、大企業ハ彼自身ニ於テ統制スルノデアアル、然ルニ大企業ニ對シテモ此本法ヲ適用スルコトハ、蓋シ統制ノ各ノ下ニ於テ大企業ヲ保護スル譯デハナイカト云フ意味ノ御疑デアッタノデアリマス、今日ノ産業狀態ノ無謀ノ競争ハ御話ノ通りニ、中小企業ノ間ニモ行ハレマスルガ、併ナガラ全體ノ大ト云ハズ中ト云ハズ小ト云ハズ、總テ各規模ノ工業ニ……企業ニ競争ガ行ハルノデアリマス、普通ニ考ヘマスレバ、弱肉強食ト申シテ、強イ力ノ者ガ中小工業ヲイデメルトカ云ツヤウナ傾ガアルト想像ガ出來マスケレドモ、今日ハ或ル企業ニ依リマスルト、却テ中小ノ企業家ガ、非常ナル無謀ノ價格ヲ以テ賣出シマシテ、爲ニ大企業家ヲ禍セシメテ居ルト云ツヤウナ狀態モアルノデアリマス、大ト云ハズ中ト云ハズ小ト云ハズ、總テノ同業者ヲ通ジテ之ニ統制ヲ與ヘテ、以テ彼等自ラガ競争ヲ避ケテ、此企業ノ安定ヲセシムルト云フコトニ致シマセヌケレバ、其産業ハ共潰レニ

ナルト云フ如キ狀態ニ在ルト云フコトヲ考ヘマシテ、本案ノ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス、決シテ之ニ依テ殊更ニ大企業家ヲ保護スルトカ、援ケルト云フ如キ意味ハ當局ニ於テ有シテ居リマセヌ、第五ニハ既往ノ産業會社ニ於テ、或ハ重役ノ不正、或ハ不當、是等ノ行爲ノ爲ニ會社其モノノ運命ガ怪シクナリマスルシ、産業其モノノ發達ヲ害スルガ如キ行動ガアル、之ヲ當局ハ認メルカ、如何ニモ遺憾ナガラ此點ニ於テハ藤村男爵ノ御意見ト同様ナ考ヲ持ツテ居リマス、之ニ對シテ或ハ立法ニ依テ之ヲ矯正シ、之ヲ阻止スル方法ヲ考ヘテ居ナイカ、是ハ、御承知ノ通り、之ニ對シマシテハ商法ノ規定存スルアリ、刑法ノ規定存スルアリ、相當ニ是等會社重役ノ行動ノ不都合ニ對スル制裁ハ備ヘテ居リマスルと思ヒマスルガ、實際ノ行ヒニ於キマシテハ確ニ指摘サレタ如キ往々事實ガアルノデアリマス、之ニ對シマシテハ一面ニ於テハ現行規定ヲ履行スルト云フコトト、或場合ニ於キマシテハ尙ホ一層是等ノ行爲ニ對シテ制裁ヲ厚クスル……嚴ニスルト云ツヤウナコトモ亦考ヘラレヌデモアリマセヌ、之ニ付キマシテハ當局ニ於キマシテハ、相當研究ヲシテ、或ハ制裁ヲモウ一層嚴ニシテ、是等ノ行動ヲ十分ニ匡救スルト云フコトヲ調査イタシテ居ル次第デアリマス、併ナガラ商工省ト致シマシテ、法律以外立法以外ニ何等考ヘテ居ナイカ、大ニ考ヘテ居ルノデア

リマス、元來會社ノ不正若クハ不當ノ行爲ガ何ニ依テ生レルカト云フコトノ原因ヲ尋ネテ見マスルト、種々ノ原因モゴザイマセウケレドモガ、畢竟イタシマスルノニ株主ノ者ノ監督、監視ガ十分ニアラザルト云フコトモ亦大ナル原因ヲナシテ居ハセヌカト思フノデアリマス、心得違ヒノ株主ハ徒ラニ會社ノ利益、株主配當ヲノミ貪リマシテ、會社ノ重役ノ者ノ經營ニ付テノ監視監督ガ等閑ニ付スルガ如キ行動ガナキニシモアラズデアリマス、是以テ株主ノ自覺、一般國民ノ監視、竝ニ自覺ヲ我々共ハ促サザルヲ得ナイノデアリマスケレドモ、玆ニ大ナル缺陷ト、我々共ガ、思ハルベキ點ハ、從來ノ會社ノ會計ガ誠ニ分リ惡イノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、貸借對照表ガ誠ニ分リ惡イノデアリマス、此貸借對照表ヲ一般ニ極クヨク分リ易イヤウニ致シマシテ、以テ株主ノ監視、國民ノ監督、監視ノ眼ヲ密ニスルト云フコトガ、是亦一面ニ於テハ會社ノモノノ不正……重役ノ不正、不當ナル行爲ヲ豫防スルト云フ働キヲ爲スモノト思フノデアリマス、合理局ニ於キマシテハ、特ニ財務管理委員會ヲ設ケマシテ、是等會社ノ會計ヲ、平たく申シマスナラバ、素人ニ極ク分リ易イヤウナ方式ニ之ヲ改メタイト云フ趣旨ヲ以テマシテ、財務管理委員會ニ於キマシテ、貸借對照表ノ極ク素人ガ分リ易イ方式ヲ決定ヲ致シマシテ、之ヲ世上ニ導テ居ルノデアリマス……

世人ノ之ニ對スル批評ヲ求メテ居ルノデアリマス、私共ガ今申上ゲル如ク、會社ノ不正、若クハ不當ノ重役ノ行動ハ、是ハ何トシテモ取締ルベキモノデアッテ、之ニ對シテハ立法ノ方法モアルノデアリマスガ、更ニ進ンデハ會社ノ會計ヲ極ク簡易ニシ、會社ノ會計ヲ極クハッキリト明確ニ致シマシテ、株主ノ十分ナル監督、監視ノ眼ヲ密ニスルト云フ事柄ガ必要デアルト云フ、斯ウ云フ見地ノ下ニ於キマシテ、今申上ゲマシタ貸借對照表ト云フモノヲ極クハッキリ、明確ニナルベキ方式ヲ以テ決定ヲ致シマシテ、之ヲ世上ニ批評ヲ求メテ居ルノデアリマス、斯ノ如キモノニ於キマシテ、望ムラクハ藤村男爵ノ言ハレル如ク、會社ノ重役ノ不正不當ノコトガ多少ナリトモ匡正スルコトガ出來レバ、誠ニ仕合せト考ヘテ居リマス

○男爵藤村義朗君 自席カラ發言ノ御許シヲ願ヒタイト思ヒマス

○副議長(公館近衛文麿君) 宜シクゴザイマス

○男爵藤村義朗君 只今私ノ質問ニ對シマシテ、商工大臣ノ明細ナル御答辯ヲ得マシテ感謝ヲ致シマス、御説明ノ中ニ、多少御説ノ可否ニ付キマシテハ、尙ホ議論研究ノ餘地ガアルドラウト思ヒマスガ、大體ニ於キマシテ明瞭ナル御説明ヲ得マシテ、私ハ非常ニ満足ヲ致シマス、此上ノ質疑ハ重ネマセヌ、何レ委員會ニ於キマシテ相當御考究モアラウト思ヒマス、私は是デ止メマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 本案ハ輸出組
合法中改正法律案外一件ノ特別委員ニ付託
イタシマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 日程第五、入
營者職業保障法案、政府提出、衆議院送付、
第一讀會、宇垣陸軍大臣

入營者職業保障法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因
テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十四日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長公爵徳川家達殿

(小字及——ハ衆議院ノ修正ナリ)

入營者職業保障法案

入營者職業保障法案

第一條 何人ト雖モ被備者ヲ求メ又ハ求

職者ノ採否ヲ決スル場合ニ於テ入營

(應召ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ命

ゼラレタル者又ハ入營ヲ命ゼラルルコ

トアルベキ者ニ對シ其ノ故ヲ以テ不利

益ナル取扱ヲ爲スベカラズ

第二條 雇傭者ハ入營ヲ命ゼラレタル被

傭者ヲ解雇シタルトキ又ハ被傭者ノ入

營中雇傭期間ノ滿了シタルトキハ其ノ

者ガ退營(入營ノ際行フ身體検査ノ結

果歸郷ヲ命ゼラレタル場合ヲ含ム)シ

タル日ヨリ三月以内ニ更ニ之ヲ雇傭ス

ルコトヲ要ス但シ左ノ各號ニ掲グル事

由ノ一ニ該當シタルニ因リ解雇シ又ハ

現ニ左ノ各號ニ掲グル事由ノ一ニ該當

スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 被傭者ガ入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リ

テハ二年、海軍ニ在リテハ三年ヲ超

エル期間服役ヲ志願シ採用セラレタ

ルトキ

二 被傭者ガ第二項ニ規定スル通知ヲ

爲サズ又ハ雇傭者ヨリ同項ニ規定ス

ル通知ニ於テ勞務ニ就クベキ旨ヲ指

定セラレタル日ヨリ故ナク二十日以

内ニ勞務ニ就カザルトキ

三 被傭者ガ疾病又ハ傷痍ニ因リ勞務

ニ堪ヘザルトキ

四 被傭者ガ著シタ其ノ職務ヲ怠リタ

ルトキ

五 被傭者ニ著シキ不良行爲アリタル

トキ

六 雇傭ノ目的タル事業ノ廢止、終了

又ハ著シキ整理縮少其ノ他之ニ準ズ

ル事由アルトキ

雇傭者及被傭者ハ命令ノ定ムル所ニ依

リ前項ニ規定スル雇傭ニ關シ必要ナル

事項ヲ相互ニ通知スルコトヲ要ス

雇傭者ハ第一項各號ニ掲グル場合ヲ除

クノ外同項ノ規定ニ依リ雇傭シタル被

傭者ヲ其ノ雇傭ノ日ヨリ三月以内ニ於

テ民法第六百二十七條又ハ第六百二十

八條ノ規定ニ依リ解雇スルコトヲ得

ズ

第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ退營者

ヲ雇傭スル場合ニ於テ之ニ與フベキ勞

務及給與ハ其ノ者ノ入營直前ノ勞務及

給與ト同等ノモノナルコトヲ要ス但シ

被傭者ガ疾病又ハ傷痍ニ因リ入營直前

ノ勞務ニ堪ヘザルトキ其ノ他已ムヲ得

ザル事由アルトキハ之ト異ル勞務及給

與ヲ與フルコトヲ妨ゲズ

第四條 前二條ノ規定ハ入營ヲ命ゼラレ

タル被傭者ガ解雇セラレザル場合ニ於

ケル退營後ノ復職及取扱ニ付之ヲ準用

ス

第五條 前三條ノ規定ハ雇傭者ガ當時五

十人以上ノ被傭者ヲ使用スル場合ニ之

ヲ適用ス

第六條 當該官吏又ハ公吏ハ前四條ノ規

定ノ施行ニ關シ必要アリト認ムルトキ

ハ當事者ニ對シ勸解ヲ爲スコトヲ得

前項ノ當該官吏又ハ公吏ノ範圍ハ勸令

ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ適用ニ付テハ國、道府縣、

市町村其ノ他之ニ準ズルモノ^{○被傭者}ガ雇傭者

ニシテ官吏又ハ公吏ニ準ジ取扱フコトヲ要

タル場合ニハ勸令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲

スル者ニ付

スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣宇垣一成君演壇ニ登ル)

○國務大臣(宇垣一成君) 只今議題ニナリ

マシタ入營者職業保障法案、之ニ付キマシ

テ提案ヲ理由ヲ說明申上ゲマス、抑、兵役

ニ服シ、入營スル者ハ一身一家ノ利害ヲ顧

ミズ、國民ノ代表トシテヨク困苦缺乏ニ堪

ヘ、専心軍務ニ盡瘁イタシ、護國ノ重任ニ

服シテ居ル者デアリマス、此點ニ想ヒテ致

シマシタナラバ、之ヲ後援シ之ヲ支持シテ、

後顧ノ憂ナク、一意奉公ノ誠ヲ致サシムル

コトハ、國民當然ノ責務デアリマス、又國

民ニ斯ノ如キ自覺ガアツテコロ、始メテ國民

皆兵ノ實モ擧ガリ、建國ノ基礎ガ愈、鞏固ヲ

加ヘ得ルト思フノデアリマス、然ルニ現在

是等兵役義務者ニ對スル國民ノ後援ハ、必

ズシモ我々ノ豫期スル程度ニハ達シテ居リ

マセヌ、殊ニ就職關係ニ付テ見マスルト、

入營スル者ニ對シテハ却テ是ガ採用ヲ嫌

ヒ、又ハ入營スル機會ニ於テ解雇セラレ、退

營後失業スル者ノ少カラザル實狀ニアルノ

デアリマス、勿論雇傭者ノ中ニハ、在營中

ニ十分ニ心身ヲ鍛鍊セラレタル除隊者ノ眞

價ヲ認メマシテ、進ンデ是ガ雇傭ヲ歡迎ス

ル向モ今日ニ於テハ相當アリマスケレド

モ、未ダソレガ廣ク且ツ普ク斯ノ如キ傾向

ニアルトハ申兼ネルノデアリマス、即チ入

營スル者ハ奉公ノ義務ヲ果シナガラ、而モ

失業ヲ以テ報ヒラレルト云フヤウナ、頗ル

不如意ノ狀態ニ置カレテ居ル者ガアルコト

ハ、誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘナイ次第デアリマス、

茲ニ於テ一日モ速カニ適當ナル方策ヲ講

ジ、一ハ以テ入營スル者ヲ安ンジテ兵役ニ

對スル義務觀念ヲ助長スルコトノ必要ヲ認

ムルノミナラズ、殊ニ現時ノ世態ニ鑑ミマ

ス時ハ、更ニ一層其緊切ナルヲ痛感スルノ

デアリマス、此見地ニ於キマシテ兵役義務

者並癯兵待遇審議會ニ於テモ、此種職業保

障法ノ制定ニ關シテ答申ヲ提出セラレタ

第デアリマス、而シテ本法案ノ趣旨ハ、從

來動モスレバ被備者ヲ求メ、又ハ求職者ノ

採否ヲ決スル場合ニ於テ、兵役關係者ヲ嫌

フノ傾向ガアリマスノデ、之ヲ防止イタシ

マスルト共ニ、雇傭者ノ負擔ヲ加重ナラシ

メザル程度ニ於テ、被備者ノ退營後ニ於ケ

ル就職並ニ復職ヲ保障セムトスルモノデア

リマス、衆議院ニ於キマシテモ、本法案ヲ以

極メテ時宜ニ適シタル妥當ナル案トシテ、

滿場一致可決セラレタノデアリマス、唯政

府提出案ノ第七條ニ對シマシテ若干ノ修正

ヲ加ヘラレタノデアリマスガ、該修正ハ原

案ノ趣旨ヲ變更セラレタモノデハナク、寧

ロ其趣旨ヲ法文ノ上ニ明確ニ表現セラレタ

モノデアリマスノデ、政府ニ於キマシテモ

之ニ同意ヲ表シタ次第デアリマス、何卒以

上説明申上ゲマシタ所ヲ御諒承下サイマシ

テ、速カニ御審議ノ上協賛アラムコトヲ切

望イタス次第デアリマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 本案ヲ付託ス

ベキ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イ

タサセマス

入營者職業保障法案特別委員

侯爵山内 豐景君 伯爵小笠原長幹君

子爵白川 資長君 子爵渡邊 七郎君

嘉納治五郎君 男爵井田 馨楠君

林 平四郎君 金子元三郎君

大城 兼義君

○副議長(公爵近衛文麿君) 只今、小泉選

信大臣ヨリ發言ヲ求メラレマシタカラ許可

イタシマス

〔國務大臣小泉又次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(小泉又次郎君) 去ル十二日ノ

本議場ニ於キマシテ三室戸子爵ヨリ郵便切

手、郵便葉書ノ大日本帝國郵便トアリシヲ

日本郵便ト最近ニ改メタコトハドウ云フ譯

デアルカ、此御質問ニ對シマシテハ御答ヲ

致シテ置イタノデアリマス、私、衆議院ノ

方ノ委員會ニ出席スル爲ニ當議場ヲ退席ヲ

致シマシテカラ、重ネテノ同子爵カラ御質

問ガアタノデアリマス、ソレハ他ノ大臣

カラモ承リマシタ、又速記録ヲ詳細ニ拜誦

イタシマシタ、其速記録ノ示ス所ニ依リマ

スルト云フト、三室戸子爵ノ御質問ノ要旨

ハ、大日本帝國郵便トアリシヲ日本郵便ト

改メテハ、思想上カラ考ヘテ、帝國ト云フ

コトガ記載サレタル方ガ宜シイカ、無イ

方ガ宜シイカ、此處ヲ一ツ宜シク御研究ヲ

願フテ、將來印刷サレル場合ニハ帝國ト云フ

文字ヲ私ハ入レテ載キタイノデアルト、斯

様ノ御希望ノ意思モ明カニナッテ居ルノデ

アリマス、之ニ付テ一言申上ゲサシテ載

ゲマシタル通り、大日本帝國郵便トアリマ

シタノヲ最近ニ於テ悉ク日本郵便ト改メタ

ニアラス致シマシテ、現ニ昨年十二月、七

年ノ切手ヲ發行イタシマシタ、其切手ニハ

矢張り從來ノ如ク大日本帝國郵便ト云フ文

字ガ認メテアルノデアリマス、ソレハ先

般モ申上ゲマシタル通り、決シテ國體上ヲ

輕ク見ル、或ハ思想上ヲ慮ラズニト云フヤ

ウナ輕々ノ取扱ハ決シテ致シテアルノデハ

ナイノデアリマス、要シマスルノニ、圖

案ノ上カラ參リマシテ誠ニ是ガ適當デア

ト考ヘマシテ、雙方トモ圖案ニ從フテ記載ヲ

致シテアルノデアリマス、併ナガラ此御質

問ノ御要旨ヲ承リマシテ、私共モ大イニ悟

ル所ガ無イノデハナイノデアリマス、將來

發行イタシマスル殊ニ重大ナル意義ヲ含

デ居リマスル記念切手、其他ノ切手葉書等

ニ於キマシテハ、御趣旨ノ在ル所ヲ能ク研

究イタシマシテ、國體上カラモ思想上カラ

モ、少シモ誤リノナイ疑ノナイト云フヤウ

ニ御取計ヒタイト存ジマス、此段御答ヘ致

シテ置キマス

〔子爵三室戸敬光君演壇ニ登ル〕

○子爵三室戸敬光君 過日、私ガ本議場ニ

於キマシテ遞信大臣ニ質問ヲ致シマシタ趣

旨ハ皆サンモ御諒承下サレタコトと思ヒマ

ス、國務多端ナ折柄、遞信大臣ハ態、私ノ

質問ニ對シマシテ再度御答辯ヲ下サレタノ

ハ誠ニ感謝ニ堪ヘナイ次第デアリマス、又

御答辯ノ全體ヲ伺ヒマシテモ、私ノ考ニ大

ヲスル必要ハナイノデアリマスガ、少シク

茲ニ希望ヲ兼ネテ御尋ヲ申シタイノデアリ

マス、只今、遞信大臣ノ申サレマスル如ク、

其後、新タニ出來マシタ所ノ印紙ニハ大日

本帝國郵便トアル、昨今ハ總テノ事務ヲ統

一サレル、合理化スルト云フ聲ガ既ニ午前

ニモ高カクノデアリマス、近頃出來ル所

ノ多クノ葉書又ハ印紙ニハ帝國ト云フ字ガ

無イ、大日本ノ大ノ字ガ無イト云フコトヲ

私ハ申上ゲタ、所ガマダ一部ハ矢張り大日

本帝國トアル、斯ウ云フモノハドウ致シマ

シテモ統一ヲサレナケレバナラスノデアリ

マス、統一ヲスルコトガ出來ナイ程、異常

ナ困難ガ何處ニアラウカト、私ハ非常ニ疑

ヲ有ツノデアリマス、日本ニハ今日ハ圖案

等モ非常ニ發達シテ居ル時代デアリマスカ

ラ、其位ナ事ハ何ンデモナイコトデアリマ

ス、容易ナ事デナケレバナラスノデアリマ

ス、又私ガ印紙ヲ拜見イタシマシテモ、前

日、遞信大臣ガ述ベラレマシタ上ニ於キマシ

テモ、菊ノ御紋章ヲ上ニ置イタカラ……斯

ウ云フコトガ一ツノ理由ニナッテ居リマス、

併ナガラ菊ノ御紋ト云フモノハ容易ニ附ケ

ベキモノデハナイノデアリマス、附ケタ以

上ハ是非非常ニ神聖ナルモノデナケレバ

ラヌノデアリマス、謂ハバ大ナル禮儀ヲシ

タモノトモ言ヒ得ルダラウト思ヒマス、其

ノ所ニ日本帝國ト云フヤウナ大切ナ帝國ト

云フ字ヲ脱カシタト云フコトハ、菊ノ御紋

章ヲ御附ケニナッタコトト非常ニソコニ御

マス、併ナガラ大體ニ於キマシテハ將來ハ考慮ヲスルト仰セラレタノデアリマスルカラ、徒ラニ私ハ追究イタスコトヲ好ム者デハアリマセヌ、ドウゾ前刻ノ御答辯ヲ實行ニ移サレマシテ、今後出來マスル所ノ印紙、葉書等ニ於キマシテハ今申上ゲタ趣旨ヲ十分御採入レアラムコトヲ願ヒタイノデアリマス、是ダケヲ申上ゲマシテ私ノ質問ハ終リマス、尙ホ此機會ニ申上ゲマスガ、農林大臣ニモ質問ガ申上ゲテアルノデアリマスカラ、是亦御出席ノ關係カラ宜シイ機會ニ御答辯ヲ願フコトヲ御傳ヘ願ヒタイノデアリマス

○副議長(公爵近衛文麿君) 本日ハ本院規則第六十條ニ依リマシテ已ムヲ得ズ是ニテ延會ト致シマス、次ノ議事日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午後二時三十一分散會

貴族院議事速記録第三十二號正誤

四四五頁四段豫算委員長末尾説明以下三行ヲ削ル

貴族院議事速記録第三十二號正誤

頁	段	行	誤	正
四五三	二	二六	相當	同等
同	三	五	事由(其事由モ隠レタル事由)	理由(其理由モ隠レタル事由)
同	三	一二	事由	理由
同	三	一五	イカヌ	遺憾

